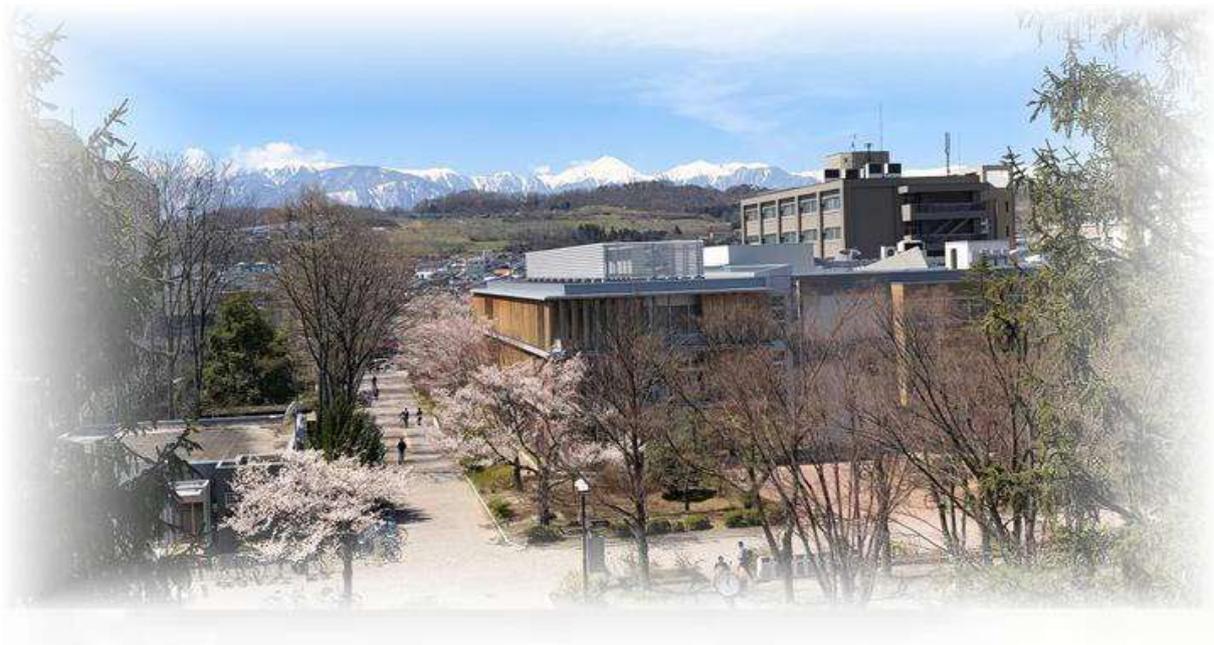


文部科学省 令和元年度

「次世代のライフプランニング教育推進事業」

教養教育（教職科目を含む）における  
ライフプランニング教育プログラム開発



成果報告書

令和2年3月

国立大学法人 信州大学  
全学教育機構  
教職支援センター



## [目 次]

1. 研究の目的	1
(1) 研究の背景	
(2) 研究の目的	
2. 研究の概要	2
(1) プログラム開発の対象	2
(2) 実施内容	2
(3) 研究の流れ	2
(4) 実施体制	3
3. 研究内容	4
(1) 学生の男女共同参画社会とキャリア教育に関する意識調査	4
ア. 学生の男女共同参画社会に関する意識調査	4
イ. キャリア教育に関する意識調査	8
(2) 試行した授業内容	11
(3) 教材の作成等	12
ア. インタビュービデオの収録	12
イ. ホームページの作成	14
4. 事業の成果・効果	15
(1) 成果物について	15
ア. ハンドブック等について	15
イ. ビデオコンテンツ	15
ウ. ホームページの作成	15
(2) 来年度の授業展開に向けて	16
ア. 「人生100年時代のキャリアビジョン」教養科目(2単位)	16
イ. 「キャリアデザイン入門」教養科目(2単位)	17
○ 資料	
・男女共同参画社会に関する意識調査から	18
・キャリア教育に関する意識調査から	32
・「キャリアとしての公務員」における授業の感想	39
・ビデオコンテンツ(インタビュー)	40



# 1. 研究の目的

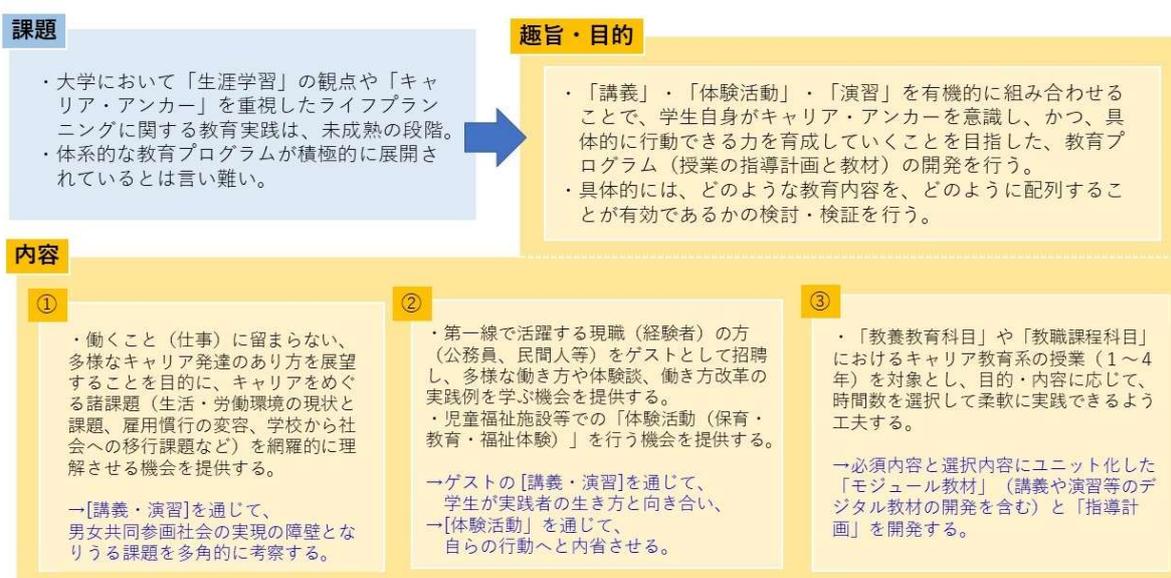
## (1) 研究の背景

次世代を担う若者が、固定的な性別役割分担意識にとらわれず、各人の能力や適性、学びや職業、ライフイベント等を総合的に考え、主体的に多様な進路を選択することができる能力・態度を身に付けるよう、男女共同参画意識の醸成を図るライフプランニング教育の充実が大学教育に求められている。特に、現代社会における諸課題解決に向けて示されたSDGsの「5ジェンダー平等」と「8働きがい」をどのように実現していくかは、学生のライフキャリア形成にとって大きな課題であり、それを乗り越えるだけの資質と能力をいかに身につけさせるかが大学教育の課題である。

しかし、大学教育においては、「男女共同参画意識の醸成」「生涯学習」「キャリア・アンカー」の視点を重視した教育実践は未成熟の段階にあり、体系的な教育プログラムが積極的に展開されているとは言い難い状況にある。そのため、ライフプランニング教育の開発が急務である。

## (2) 研究の目的

男女共同参画社会の実現の視点を踏まえながら、働くこと（仕事）にとどまらない、多様で重層的なキャリア発達（学生自身の人生におけるライフイベントや職業生活、社会において果たす役割等を含めたライフ・キャリアやワーク・キャリアなど）の在り方を展望する機会を充実させていくためには、どのような教育内容を、どのように配列することが有効であるかの検討を行い、「講義」・「体験活動」・「演習」の3つの取り組みが有機的に機能する教育プログラム（授業の指導計画と教材）の開発を目的とした。



## 2. 研究の概要

### (1) プログラム開発の対象

「教養教育科目」や「教職課程科目」におけるキャリア教育系の授業（1～4年）

### (2) 実施内容

#### ア. 授業プログラムの開発

「人生100年時代のキャリアビジョン」・「キャリアデザイン入門」

#### イ. 実態調査

- ・男女共同参画社会に関する意識調査
- ・キャリア教育と社会参画に関する意識調査

#### ウ. インタビュー・アーカイブの作成

#### エ. 教材公開用ホームページの作成

### (3) 研究の流れ

ア. 男女共同参画を社会推進のための教育課題や、キャリア・アンカーを意識したライフプランの立案力・実行力育成するための教育内容の在り方を探る学生の実態把握アンケート調査

イ. 男女共同参画社会の実現に向けた諸課題を多角的に分析・考察するための講義，児童福祉施設等での保育や教育等の実務体験活動，ゲストスピーカーによる多様な働き方などに係る体験談から学ぶ演習の3つの要素を有機的に機能させる授業の指導計画と教材研究

ウ. 体験談等のインタビュー・アーカイブの作成

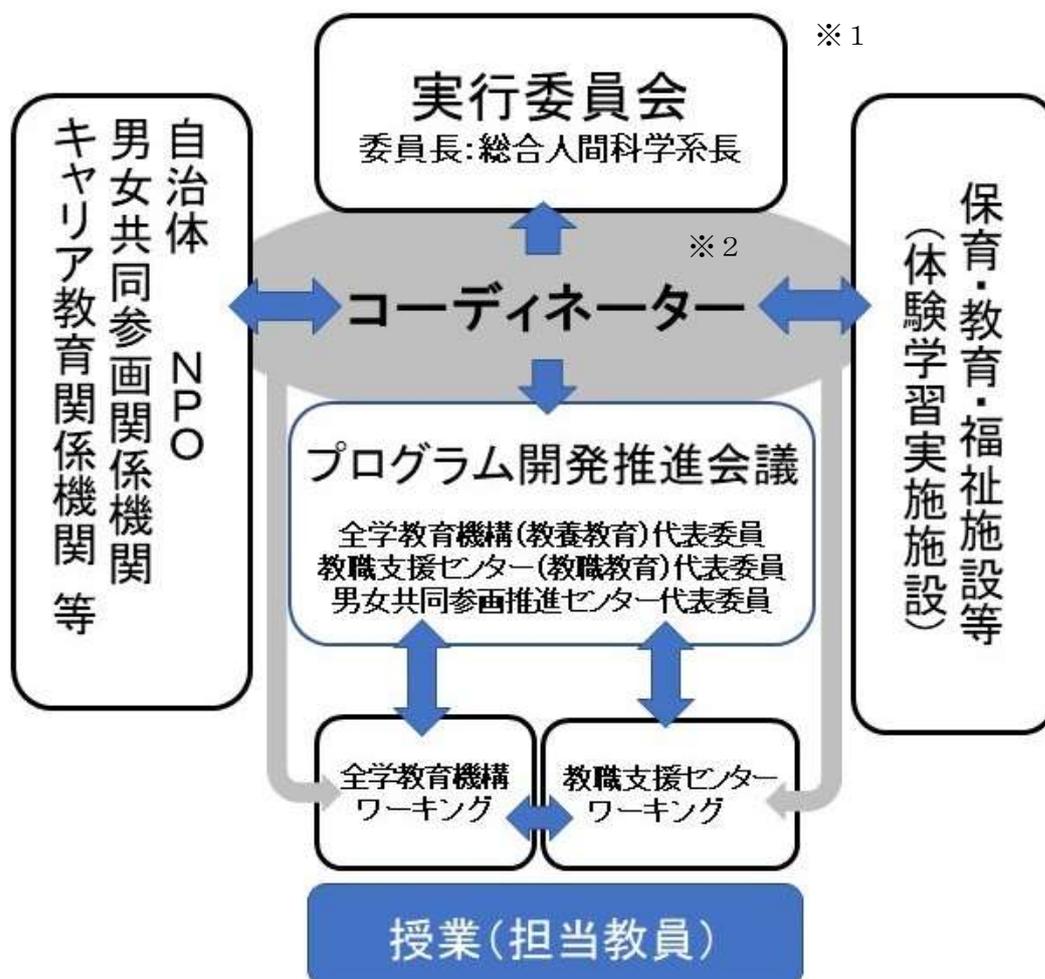
※表中のアイコンは会議等の実施を示す。

…会議
 …授業
 …調査等
 …収録
 …情報収集

内容		備考	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
会議	実行委員会					学外委員委嘱	第1回開催			第2回開催
	プログラム開発推進会議		第1回 (学内のみ)			第2回 (学内のみ)	第3回 (学内のみ)	第4回 (学内のみ)	第5回 (学内のみ)	第6回 (学内のみ)
教材作成	指導計画書作成	試用版					WGによる研		シラバス研究	
	ハンドブック等作成	試用版				WGによる研				
	ビデオ教材作成	試用版				WGによる研究			撮影・編集作業	
	ホームページ作成	試用版							編集作業	
実証授業	キャリアとしての公務員	来年度内容検討					試行授業・ビデオ収録			
	キャリアデザイン実践ゼミ	学習効果測定					通常授業として開講			
	キャリア形成論Ⅱ	学習効果測定					通常授業として開講			
体験活動	学習支援活動等					授業外のボランティア活動等				
	教育臨床演習基礎	来年度検証				通常授業として実施				
調査	学生意識調査(男女共同参画)						事前意識調査		事後意識調査	
	学生意識調査(キャリア教育)			アンケート作成	機構倫理委員会審議			キャリア教育 意識調査実施		
視察	情報収集						工藤敬子氏ヒアリング フェードイン社長・橋本明			
	ヒアリング調査						角田みのり氏ヒアリング 岡山県人権政策推進委員会 山形県男女共同参画推進委員会 委員長			

#### (4) 実施体制

総合人間科学系長を実行委員長とする実行委員会の元に、教養教育を担当する「全学教育機構」、教職教育を担当する「教職支援センター」、男女共同参画を全学的に推進する「男女共同参画推進センター」が連携・協働し、教育プログラムを開発するワーキングチームを設置した。



##### ※1 (実行委員)

高野嘉寿彦…信州大学総合人間科学系長・教授  
 中島 美帆…信州大学男女共同参画推進センター長・准教授  
 小山 茂喜…信州大学教職支援センター副センター長・教授  
 山田千代子…NPO 法人長野県 NPO センター・代表理事  
 城取 学 …(株)キッセイ・コムテック・常務取締役  
 中村 麻紀…(株)東日本旅客鉄道長野支社・佐久平駅長  
 藪塚 謙一…(株)朝日新聞教育総本部・総括

##### ※2 (コーディネーター)

荒井英治郎…信州大学教職支援センター・准教授

### 3. 研究内容

#### (1) 学生の男女共同参画社会とキャリア教育に関する意識調査

男女共同参画社会とキャリア教育（ライフプランニング）に関する実態把握のため、本学の男女共同参画推進センターが職員を対象に実施した男女共同参画社会に関する意識調査の内容を学生向けに改変し、キャリア教育系の教養科目受講者と教職科目である教職実践演習の受講者（4年生）を対象に実施した。

#### ア. 男女共同参画社会に関する意識調査

##### ① 回収数

248名（男性149名，女性97名，その他2名）

##### ② 回答者の年齢構成と回収数（未回答1名を除いた数）

18才…65名，19才…102名，20才…21名，21才…17名，22才…30名，23才…12名

##### ③ 調査結果の概要

#### ア) 結婚について

将来できれば結婚したい		結婚の際に自分が姓（苗字）を変えても良い	
(1) あてはまる	66.9%	(1) あてはまる	50.0%
(2) どちらかというにあてはまる	22.6%	(2) どちらかというにあてはまる	30.6%
(3) どちらかというにあてはまらない	7.7%	(3) どちらかというにあてはまらない	14.1%
(4) あてはまらない	2.8%	(4) あてはまらない	5.2%

将来のパートナー（夫・妻）は家事ができる人の方がよい		将来のパートナー（夫・妻）は収入の高い人の方がよい	
(1) あてはまる	46.4%	(1) あてはまる	26.2%
(2) どちらかというにあてはまる	44.8%	(2) どちらかというにあてはまる	50.0%
(3) どちらかというにあてはまらない	6.0%	(3) どちらかというにあてはまらない	19.4%
(4) あてはまらない	2.8%	(4) あてはまらない	4.4%

「将来できれば結婚したい」に関しては、「あてはまる」と「どちらかというにあてはまる」の肯定的な回答を含めると89.5%である。

また、「結婚の際に自分が姓（苗字）を変えても良い」に関しては80.6%が肯定的で，91.2%が「将来のパートナー（夫・妻）は家事ができる人の方がよい」と考えている。

なお、「将来のパートナー（夫・妻）は収入の高い人の方がよい」に関しては76.2%である。

イ) 子育て, 家庭生活について

将来できれば子どもを持ちたい		子どもが生まれたら育児休業を取りたい	
(1) あてはまる	55.2%	(1) あてはまる	55.2%
(2) どちらかというにあてはまる	31.5%	(2) どちらかというにあてはまる	31.5%
(3) どちらかというにあてはまらない	9.3%	(3) どちらかというにあてはまらない	9.3%
(4) あてはまらない	4.0%	(4) あてはまらない	4.0%

家事や育児と, 仕事を両立するのはとても大変なこと		子どもが3歳くらいまでは, 母親が家で育てたほうが良い	
(1) あてはまる	67.7%	(1) あてはまる	16.9%
(2) どちらかというにあてはまる	31.0%	(2) どちらかというにあてはまる	37.5%
(3) どちらかというにあてはまらない	0.8%	(3) どちらかというにあてはまらない	32.7%
(4) あてはまらない	0.4%	(4) あてはまらない	12.9%

家族に介護が必要となったら自分が引き受けたい	
(1) あてはまる	13.7%
(2) どちらかというにあてはまる	48.8%
(3) どちらかというにあてはまらない	32.7%
(4) あてはまらない	4.8%

「将来できれば子どもを持ちたい」に関しては86.7%, 「子どもが生まれたら育児休業を取りたい」に関しては86.7%であるが, 「家事や育児と, 仕事を両立するのはとても大変なこと」と考えている学生は98.7%と高い値を示している。なお, 「子どもが3歳くらいまでは, 母親が家で育てたほうが良い」に関しては54.4%, 「家族に介護が必要となったら自分が引き受けたい」に関しては62.5%である。

ウ) 仕事について

リーダーの役割はあまり引き受けたくない		性別によって向いている仕事が違うと思う	
(1) あてはまる	19.0%	(1) あてはまる	33.1%
(2) どちらかというにあてはまる	41.1%	(2) どちらかというにあてはまる	39.1%
(3) どちらかというにあてはまらない	31.0%	(3) どちらかというにあてはまらない	18.5%
(4) あてはまらない	8.9%	(4) あてはまらない	9.3%

男女の差より個人の能力差のほうが大きい		男女平等を強調しすぎると、逆差別になる恐れがある	
(1) あてはまる	57.7%	(1) あてはまる	45.6%
(2) どちらかというにあてはまる	35.9%	(2) どちらかというにあてはまる	39.5%
(3) どちらかというにあてはまらない	4.8%	(3) どちらかというにあてはまらない	12.9%
(4) あてはまらない	1.6%	(4) あてはまらない	2.0%

日本では男性の方が優遇されている	
(1) あてはまる	14.6%
(2) どちらかというにあてはまる	49.8%
(3) どちらかというにあてはまらない	27.1%
(4) あてはまらない	8.5%

将来の仕事や会社を選ぶ際に重視することは何ですか			
(1) 給料	23.0%	(8) 残業の有無	3.4%
(2) やりがい	19.1%	(9) 仕事や会社の将来性	2.3%
(3) 勤務地	8.5%	(10) 福利厚生(寮・手当・施設など)	4.4%
(4) 自分の適性	18.2%	(11) 社会貢献の度合い	2.0%
(5) 大企業・有名企業かどうか	1.8%	(12) 資格取得や研修制度	0.4%
(6) 職場の雰囲気や人間関係	13.8%	(13) その他	0.4%
(7) 育休・介護休業などの取りやすさ	2.7%		

「リーダーの役割はあまり引き受けたくない」に関しては60.1%、「性別によって向いている仕事が違うと思う」が72.2%、「男女の差より個人の能力差のほうが大きい」が93.6%、「男女平等を強調しすぎると、逆差別になる恐れがある」が85.1%、「日本では男性の方が優遇されている」は64.4%である。

「将来の仕事や会社を選ぶ際に重視すること」に関しては、「給料」(23.0%)、「やりがい」(19.1%)、「自分の適性」(18.2%)、「職場の雰囲気や人間関係」(13.8%)が上位で、「育休・介護休業などの取りやすさ」は2.7%、「福利厚生(寮・手当・施設等)」に関しては4.4%である。

エ) 制度等の認知度について

男女雇用機会均等法		ジェンダー	
(1) よく知っている	26.2%	(1) よく知っている	43.1%
(2) 少し知っている	51.2%	(2) 少し知っている	45.6%
(3) 聞いたことがある	21.8%	(3) 聞いたことがある	11.3%
(4) 全く知らない	0.8%	(4) 全く知らない	0.0%

男女共同参画社会基本法		ポジティブアクション	
(1) よく知っている	19.8%	(1) よく知っている	5.6%
(2) 少し知っている	49.6%	(2) 少し知っている	12.9%
(3) 聞いたことがある	29.0%	(3) 聞いたことがある	31.0%
(4) 全く知らない	1.6%	(4) 全く知らない	50.4%

ワークライフバランス		くるみんマーク	
(1) よく知っている	38.7%	(1) よく知っている	3.6%
(2) 少し知っている	34.7%	(2) 少し知っている	4.0%
(3) 聞いたことがある	21.4%	(3) 聞いたことがある	8.1%
(4) 全く知らない	5.2%	(4) 全く知らない	84.3%

制度等の認知度については、「男女雇用機会均等法」が77.5%、「ジェンダー」が88.7%、「男女共同参画社会基本法」が69.4%、「ポジティブアクション」が18.5%、「ワークライフバランス」が73.4%、「くるみんマーク」が7.6%と、内容によって差が大きい。

④考察

中学校の社会科や家庭科等の教科学習で扱われる「男女雇用機会均等法」や「男女共同参画社会基本法」といった法律や、「ジェンダー」や「ワークライフバランス」といった理念については本学の学生は概ね理解しているといえる。

しかし、「ポジティブアクション」や「くるみんマーク」という男女共同社会の実現に向けての具体的な取り組みに対する認識は低く、学生にとって男女共同参画社会実現に向けて具体的な行動に接する機会(実社会との関わり)を充実させていくことが必要といえる。また、高等学校までの学校教育で展開されている「総合的な学習の時間」における職場体験を中心としたキャリア教育の中で、男女共同参画社会実現に向けての取り組みや実態を確認するといった視点を含めた探究活動の充実も必要といえる。

「子育て、家庭生活について」や「仕事について」の意識をみると、性差によるもろもろの行動に関する差は縮小しているといえるが、「子どもが3歳くらいまでは、母親が家で育てたほうが良い」や「家事や育児と、仕事を両立するのはとても大変なこと」をみると、未だ社会的慣習や

暗黙知による判断が確認できる。従って、無意識の行動や判断に気づかせるための教育を充実させていく必要が改めて明らかとなった。

なお、本事業の中間発表時にアンケートの内容に、男女共同参画社会推進の障壁を生み出しかねない内容もあるとの指摘を受けた。大学として男女共同参画社会推進に向けて取り組む際の課題も明確になった。

以上のことから、授業設計に向けては、①具体例を通して法律の根拠や理念を学び直す機会を提供していくことが必要であること、②男女による意識の差が見られることから、多様な人材から仕事・結婚・子育て等についての体験談等を基にした多様なケーススタディに触れる機会を提供すること、③男女共同参画社会の実現と自身のライフプランの立案・実行といった課題解決に向けて、学生同士の考え方を互いにディスカッションする対話の場を学びの中に組み込むことの必要性が明らかになった。

## イ. キャリア教育に関する意識調査

### ① 対象者

人文学部・理学部・工学部・農学部・繊維学部の教職課程履修の4年生

### ② 学習環境

教育実習・教職実践演習履修後

### ③ 回収数

104名

### ④ 考察

#### ア) 学校教育段階で受けたキャリア教育について

学校教育段階でのキャリア教育の学習経験について、以下の質問を設定し、自由記述での回答とした。

- |  |
|--|
| <p>①. 中学校での職場体験について、職場を選択する際どのような動機付けが行われましたか？</p> <p>②. 中学校での職場体験について。どこに職場体験に行きましたか？</p> <p>③. 中学校における職場体験で、何を学ぶことができたと思いますか？</p> <p>④. 高等学校でのキャリア教育について、どのような学びがありましたか？</p> <p>⑤. 高等学校のキャリア教育の学びから得たものは、何ですか？</p> |
|--|

### ①. 中学校での職場体験での職場を選択する際の動機付けについて

中学校の職場体験における学習の動機付けや職場選びの観点は、興味のある職業・職場や将来就きたいと考えている職業・職場を体験しようという内容や、学校の近くの指定された職場で体験しようという内容がほとんどであり、どのような動機付けがなされたか覚えていない学生が多くみられた。

自らのキャリア形成を主体的に考えて体験的学習活動に臨むというより、「やることになっている」体験的活動という傾向がみられ、働くとはどういうことか、生きがいとは何か、ライフバランスをどのように考えたらよいかを問うための学習とは言い難いといえる。

### ②. 中学校での職場体験の場所

職場体験場所(受け入れ事業所)は、保育園・幼稚園・小学校・病院・福祉施設・警察・消防署・博物館等の公共施設やスーパーなどの商業施設が多く、職種として公共機関やサービス業に偏る傾向がみられた。

### ③. 中学校での職場体験で学べたこと

職場体験で学べたことについては、ほとんどが個別の体験内容となっており、生き方、ライフワークバランスやライフプランニングといった観点での学びの成果は薄いと推察される。

### ④. 高等学校でのキャリア教育について

高等学校でのキャリア教育は、大学進学に向けての準備のための学習の比率が高いといえる。進路を調べる学習において、外部の多様な識者による講演会を体験した学生は、自らの生き方を問う場面となっており、意義ある学習であったと推察される。

なお、体験的な学習が少ないことから、知識理解中心の学びになっている傾向がみられた。

### ⑤. 高等学校のキャリア教育の学びから得たもの

④同様、大学進学に向けての情報がほとんどで知識理解中心の学びになっている傾向がみられた。また、外部講師による講演からは、自らの生き方を問うきっかけになったようである。

## イ) 大学でのキャリア教育について (含体験活動)

大学におけるキャリア教育関連の学び等について、以下の質問を設定し、自由記述での回答とした。

- ①. 大学卒業後の進路(就職)に影響を与えた授業(授業名)を教えてください。(複数可)
- ②. 大学生活で、インターンやボランティアなどを経験しましたか?
- ③. インターンやボランティアをした人は、体験活動の感想を書いてください。
- ④. 卒業後の進路(就職先)は、どのような観点で決定しましたか?

### ①. 大学生活でのインターンやボランティアなどを経験について

回答者の多くが教職課程履修学生であったことから、教育現場を体験する活動として奨励している小・中・高校での学習支援ボランティア活動が、教育とは何かを考えたり、子供たちの実態を知ったりするよい経験になったと振り返る学生が多かった。

企業等に就職予定の学生は、インターン等の体験が働き方も考えるきっかけになり、就職に結びついている傾向がみられた。

### ②. 大学卒業後の進路(就職)に影響を与えた授業について

教職課程を受講している学生は、教育実習が就職に大きな影響を与えているといえる。

「キャリアとしての農業」のように、学部の高年次科目としては、インターンシップを単位認定することを目的とした授業が開講されており、履修した学生は影響を受けたとしているが、受講者は限定される。そのため、教職課程以外の授業については、明確に進路決定に影響を受けた授業がない傾向がみられた。

キャリア教育系の授業は教養科目での開講のため、受講者も少ない。より多くの学生が自分自身のキャリアについて学ぶ機会を作ることが重要である。

## ウ) 社会参画にかかわる意識について

自分と社会との関わりについてどのような意識を持っているかという視点で、以下の質問を設定し、自由記述での回答とした。

- ①. これから、自分が社会に対して、どうすることが社会に役立つことだと考えますか?
- ②. 人々の社会参画について、現代的課題は何だと考えますか?

## ①. これから、自分が社会に対して、どうすることが社会に役立つことかについて

「働いて、身に付けた知識等を社会のために生かしていく」といった回答にみられるように、漠然とした意識にとどまっているといえる。

回答者に教職課程を履修している学生が多いことから、教職課程で学んだ知識を様々な場面で生かしていきたいという回答もみられた。

## ②. 社会参画についての現代的課題についての意識

現代社会における社会参画の課題については、「社会参画の意義の理解」、「社会参画への関心度の低さ」、「給与格差」、「年代層による価値観の相違」、「女性の社会進出」、「残業や労働体制」といった内容を指摘しており、教科学習で扱われている内容を理解しているといえる。

しかし、社会参画に関わる課題解決に向けては、「人と出会い、助け合える関係を築くこと」「社会人としての自覚を持って働くこと」「自分で考えて行動すること」といった内容が挙げられたが、自分を含めて社会を構成する人々が、具体的にどのような行動をとらなければならないのかという提言までには至っていない状況にもある。

以上のことから、授業設計の視点としては、理論の習得(知識理解)の学びに加えて、体験談を聞き感動したことや共感したことを自分の生き方に反映させる学び、学生個々による様々な体験的活動からの学び、具体的には、体験活動の中での、多様な人々との出会いから実社会の課題を体験的に学んだり、人の生きざまを学んだりする機会が必要であるといえる。

## (2) 試行した授業内容

既開設教養科目「キャリアとしての公務員」の授業を活用し、ライプランニング教育の可能性について試行した。授業構成は、キャリア・プランニング・男女共同参画・多様な働き方について、大学教員からの理論知を中心とした講義に加え、実際に男女共同参画推進事業や働き方改革を推進している公務員や NPO 職員をゲストティーチャーとして招いた講義や演習を行うというものであった。

試行内容としては、この授業を通して、生活知に基づく知識・理解にかかわる講義の在り方や学生自身の学びの必然を生み出すためのゲームの導入、プレゼン等の能動的な学習への関わりをねらった演習の在り方を探った。

具体的には、全15回中9回の授業の中で、公務員や NPO 職員をゲストティーチャーとして招き、日常業務で対応した様々な事案や、ゲストティーチャー自身の生き方に関わる体験談をお話しいただき、ディスカッションを行った。

このようなスタイルの学びを設定したことにより、学生たちはこれまで気づかずに生活してきた事象や他人事として捉えていた自身のスタンスを見直したり、多角的なもの見方の大切さに気づいたりすることができた。また、学生自身が固定観念や「無意識の偏見」を持っていること

に気づくきっかけ作りにもなった。

具体例としては、演習として授業の2回を活用してSDGsに関わるカードゲームを試みた。

授業後のアンケートをみると、SDGsに関わるカードゲームが多くの学生の印象に残った内容であったことがわかる。



「これまで話を聞くだけでSDGsについて深く考えたことは無かったけれど、この授業で自分の生活に密接していることを実感した」という感想にみられるように、SDGsという言葉は聞いたことがあるが、それほど気にもしていなかったという学生が多く、カードゲームを通して、地球上で起きている様々な多様な課題に気づいてもらうことができた。



同時に、ゲームの後の意見発表など主体的に学習に取り組むことができ、SDGsは自分たちの社会参画の在り方や男女共同参画に係る課題であることに気づくことができた。

### (3) 教材の作成等

#### ア. インタビュービデオの収録

モジュール教材としての活用を意図した「男女共同参画」「多様なキャリア」「キャリア形成について」に関するインタビュー教材を作成した。

##### ① 男女共同参画について

山田千代子さん（長野県NPOセンター理事長・元長野市議会議員）



男女共同参画社会を求めて展開してきた自らの社会運動の軌跡を語ってもらった。

特に、子育てを通して、自分と様々な人たちとのつながりが広がっていったこと、障がい者の居場所づくりなどの活動を通して無意識の差別や格差の存在に気づき、社会的な活動へ至ったことについて語ってもらった。

## ② 多様なキャリアについて

小林達矢さん（長野県 NPO センター事務局次長）



政党本部でのインターン，松下政経塾での学び，ボランティア活動等，これまでのキャリアと今後の展望について語ってもらった。

特に，地域の活性化に関わるボランティア活動に関わったことの体験談等から，SDGs の意義等を語ってもらった。

## ③ キャリア形成について(ライフ・ヒストリーから)

ア) 松本 裕さん（大手通信会社デジタル革新本部デジタルデザイン部長）



新しい社会を構築していくことへの思いと，多様な視点の持ち方について語ってもらった。

特に自分の専門分野以外の内容に関心を持ってチャレンジしていくこと，社内でもなぜ自分がこの仕事をしなければならないのかと思うより，この仕事で自分が何を学べるかと考えることが自分にとって「得」になるという内容を語ってもらった。また，業務について男女差等を感じたことはなく，同等が当たり前であること等を語ってもらった。

イ) 矢吹圭介さん（システム開発会社システムエンジニア）



会社のある地域の生涯学習活動を通じて地域の人々との関わり方や，男女共同参画社会実現への思いを語ってもらった。

特に，自分の出身地とは異なる場所での生活の中で，地域にどのように関わっていくかが自分の生活を充実させてくれるということや，男女という固定観念を持っている同世代の人たちに，お互いの良さを見つけ出すことの大切さを生涯学習や社会活動を通して，提案していることを話してもらった。

ウ) 山崎祐哉さん (システム開発会社システムエンジニア)



文系出身の SE という経緯や、ワークライフ・バランスなど、将来への思いを語ってもらった。

特に、自分の趣味の幅を広げていくことで、生活を充実させていくことが、仕事の充実にもつながっているという内容を語ってもらった。

## イ. ホームページの作成

インタビュー等のビデオコンテンツやハンドブック等を配信するためのホームページのプロトタイプを作成した。

### ① 基本設計

#### ・管理者権限

教材全体を管理し、開発した教材のコマごとに登録内容の変更とプランの追加。

#### ・教員権限

登録された動画・教材の利用。(ダウンロード等可能)

#### ・登録できる教材・コンテンツの種類

- a 映像資料…MP4
- b 画像資料…PNG. JPG. GIF
- c 文書資料…DOC. DOCX. TXT. PDF. JTD
- d スライド資料…PPT. PPTX
- e 表計算データ…CSV. XSL. XSLX

### ② トップページ



### ③ 教材ページ



動画 (mp4)  
コンテンツ  
視聴用

どのテーマに  
該当するかを  
示す

動画以外の教材の有無を示す

## 4. 事業の成果・効果

### (1) 成果物について

#### ア. ハンドブック等について

以下の内容で、ワークシートも含めて検討した。

- ① キャリアとは…ワーク・キャリアとライフ・キャリア
  - ② 社会構造の変化と人生 100 年時代に向けて…ライフシフト
  - ③ 男女共同参画社会の実現に向けて（ジェンダー，LGBT，女性活躍推進を含む）
    - ・人権とは何か，平等とは何か（性差別に焦点を当てて）
    - ・格差の構造（ジェンダー問題等）
    - ・日本社会における男女共同参画社会実現に向けての歴史
  - ④ SDGs の理念とは
    - ・ジェンダー平等を実現するために
  - ⑤ ライフヒストリーとは
    - ・主権者教育の視点から（男女共同参画社会の実現に向けて）
    - ・消費者教育の視点から（意思決定の在り方）
  - ⑥ 働くとは…学校と社会のトランジション（社会参画に向けて）
  - ⑦ 二人でともに生きるとは（結婚とは）
  - ⑧ 子供を育むとは…人口減少問題と男女共同参画社会実現への観点から
  - ⑨ 高齢化社会を生きるために
  - ⑩ ライフプランニングとは
- ※ 人生の先輩に聞く

#### イ. ビデオコンテンツ（別紙資料参照）

男女共同参画・多様なキャリア・キャリア形成(ライフ・ヒストリー)について4本インタビューを収録した。

#### ウ. ホームページ作成（3-（3）-イ参照）

プロトタイプを作成した。



## (2) 来年度の授業展開に向けて

### ア. 「人生100年時代のキャリアビジョン」教養科目（2単位）

2019年度開講同名授業では、到達目標を「男女共同参画の必要性を理解するとともに、自身のキャリアビジョンを踏まえて、現状の問題点を分析・考察することができる」と「男女共同参画推進のための基礎的な知識を習得するとともに、社会的／地域的／個人的な現状の問題点を分析・考察することができる」であったが、2020年度は多様性により焦点化し、内容配列も基本理念の確認等から、実生活への適応の仕方や、ライフプランニング設計に応用できるよう工夫し実践する。

#### ① 授業のねらい

ダイバーシティ&インクルージョンの理念について歴史的背景と現状を理解するとともに、自身のキャリアビジョンを踏まえて、現代社会における問題点を多角的に分析・考察することで、性別や障害の有無などによる従来の固定概念にとらわれないこれからの働き方・生き方・社会を考える。

#### ② 授業計画

- 第1回：講義概要（男女共同参画推進センター運営委員会）
- 第2回：平等とは何か，人権とは何か
- 第3回：格差の構造
- 第4回：文系・理系とジェンダー
- 第5回：だれもが平等に暮らせるユニバーサルデザイン
- 第6回：ワークライフバランスと女性管理職登用
- 第7回：セクシャルマイノリティ/LGBTとダイバーシティ
- 第8回：男性と育児
- 第9回：仕事と子育て 両立支援の現場から
- 第10回：作業ではなく仕事をするための働き方改革
- 第11回：ワークライフバランス
- 第12回：学校教育・制度におけるジェンダー
- 第13回：料理とジェンダー
- 第14回：未来の家族を考える
- 第15回：講義総括

※学部を横断した複数の教員(女性教員を中心に)と、実務経験のある外部講師によるオムニバス形式をとり、毎回異なるテーマについて講師がそれぞれの立場で講義する。

## イ.「キャリアデザイン入門」教養科目（2単位）

### ① 授業のねらい

現代日本を取り巻く労働環境や、学校から社会への移行をめぐる教育課題など、「キャリア」をめぐる諸課題を網羅的に理解した上で、「ワーク・キャリア」と「ライフ・キャリア」の双方を射程に含めた自分自身のキャリアを展望する。

### ② 授業計画

第1回：ガイダンス、「キャリア」とは何か、社会構造の変化と人生100年時代

（AI論議，ワークシフト，ライフシフト）

第2回：キャリアの基礎理論

（特性・因子論アプローチ，職業的発達理論，キャリア発達理論，意思決定理論，社会的認知理論，ポストモダン・アプローチ）

第3回：学校と社会のトランジション（ジョブカフェ，ハローワーク，ジョブ・カードを含む）

第4回：SDGsの理念と実践①（SDGsゲームの体験とリフレクションなど）

第5回：SDGsの理念と実践②（SDGsゲームの体験とリフレクションなど）

第6回：人権と差別

第7回：男女共同参画社会の到来（ジェンダー，LGBT，女性活躍推進を含む）

第8回：地方創生時代の到来（人口減少問題，高齢化問題）

第9回：18歳選挙権・18歳成人年齢時代の到来

（主権者教育，金融経済教育，消費者教育を含む）

第10回：就職とキャリア（フリーター・ニート問題）

第11回：結婚とキャリア（デートDVを含む）

第12回：育児とキャリア（子育て支援問題を含む）

第13回：老後とキャリア（働き方改革，NPO活動，プロボノ，リカレント教育を含む）

第14回：ライフ・ヒストリーとキャリア・プランニング

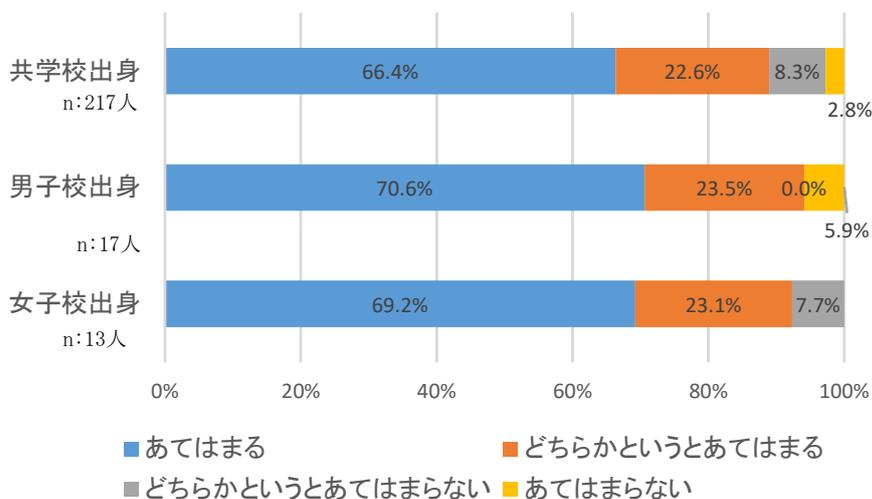
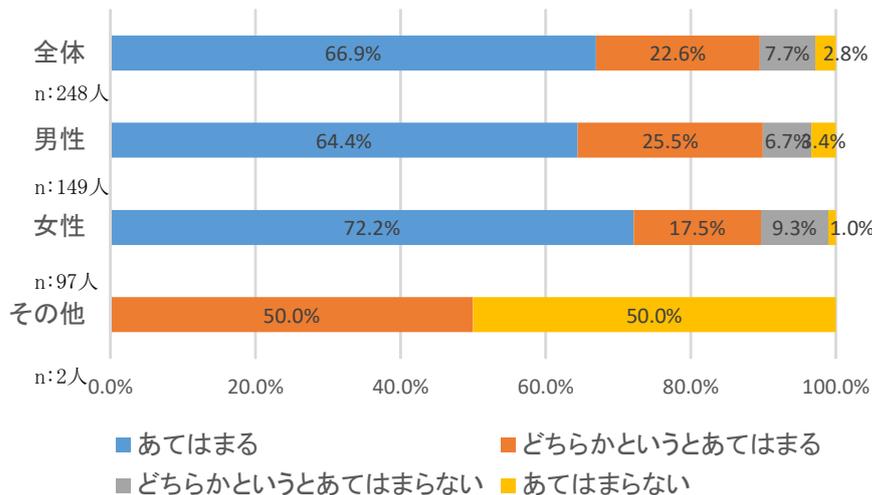
第15回：キャリアの理論と自己実現

※毎時間グループ内・グループ間でのディスカッションを構成する。

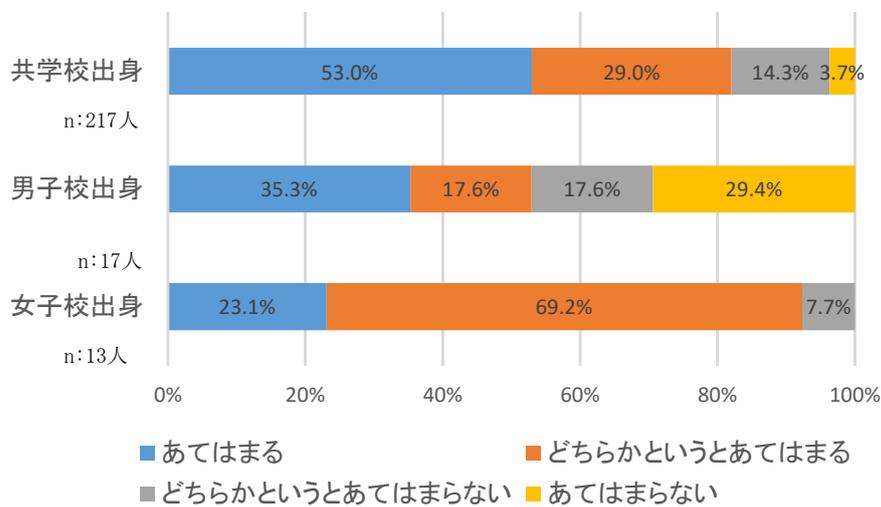
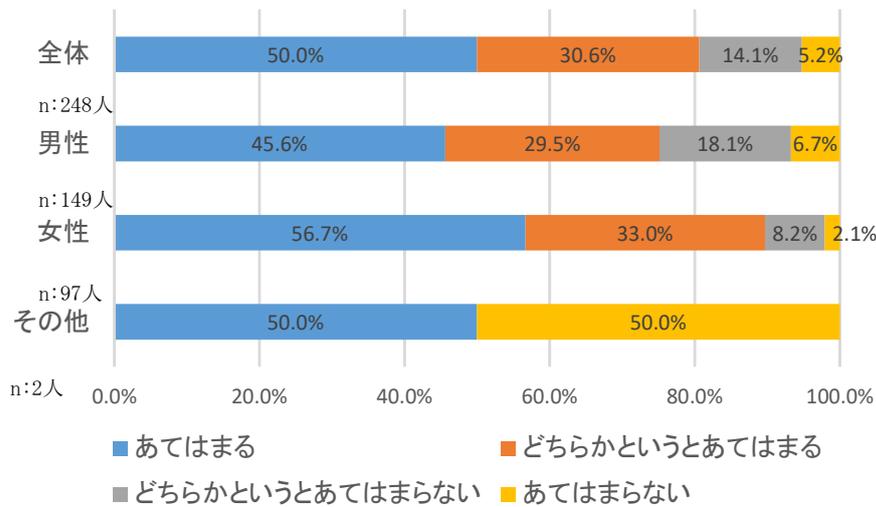
## 男女共同参画社会に関する意識調査から

- 実施日…2019年10月2日から10月30日まで信州大学elearningシステムで実施
- 回収数…248名（男性149名，女性97名，その他2名）
- 年齢構成（未回答1名は除いた）
  - 18才…65名，19才…102名
  - 20才…21名，21才…17名，22才…30名，23才…12名
- 校種別
  - 共学校出身者…217名，男子校出身者…17名，女子校出身者…13名，無回答…1名
- 結果

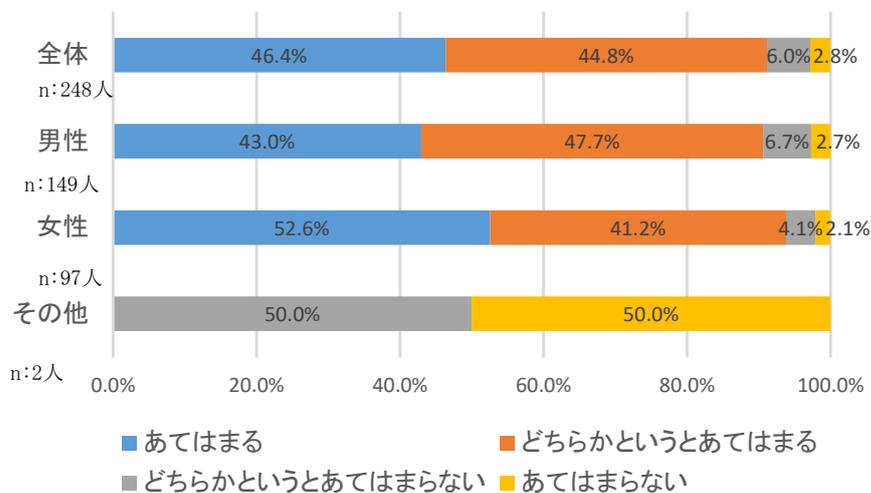
- ・将来できれば結婚したい

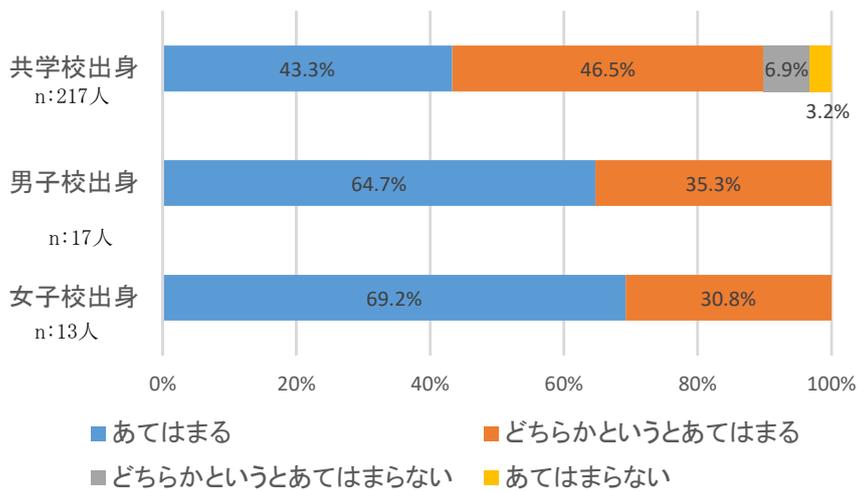


・結婚の際に自分が姓（苗字）を変えても良い

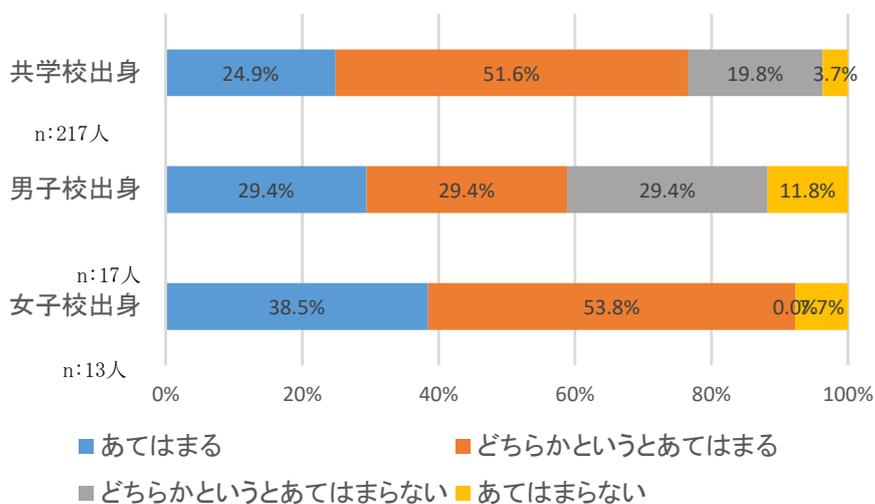
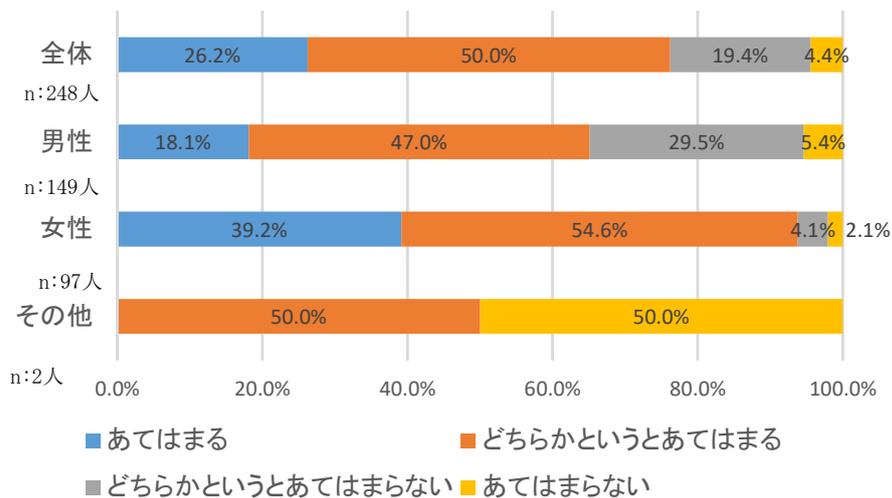


・将来のパートナー（夫・妻）は家事ができる人の方がよい

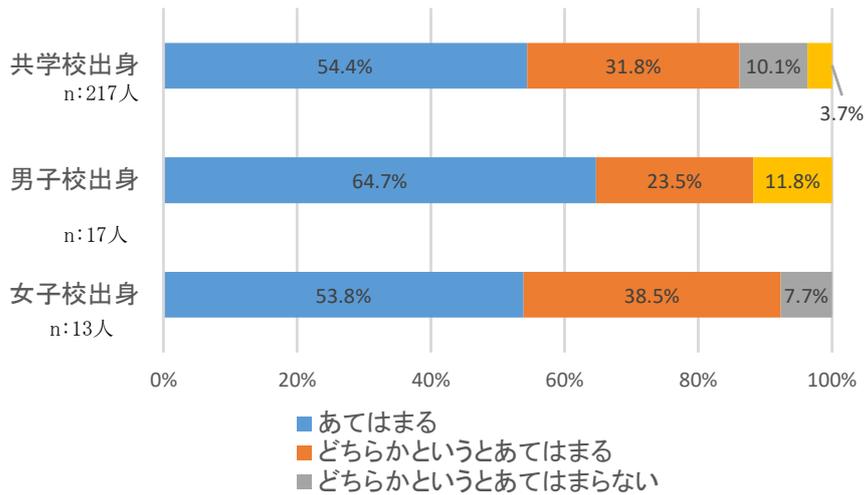
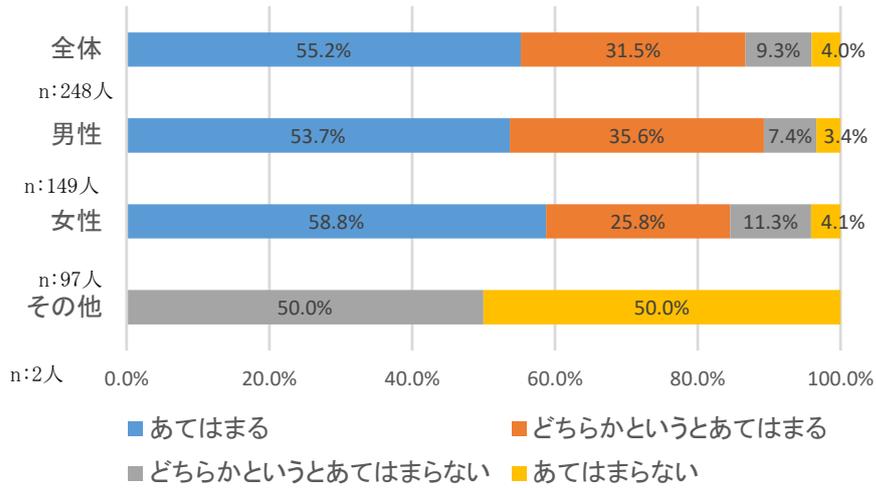




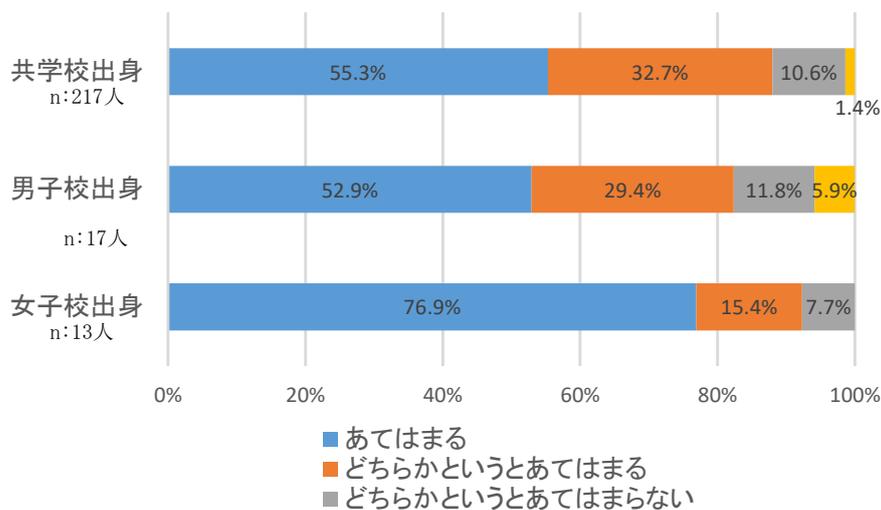
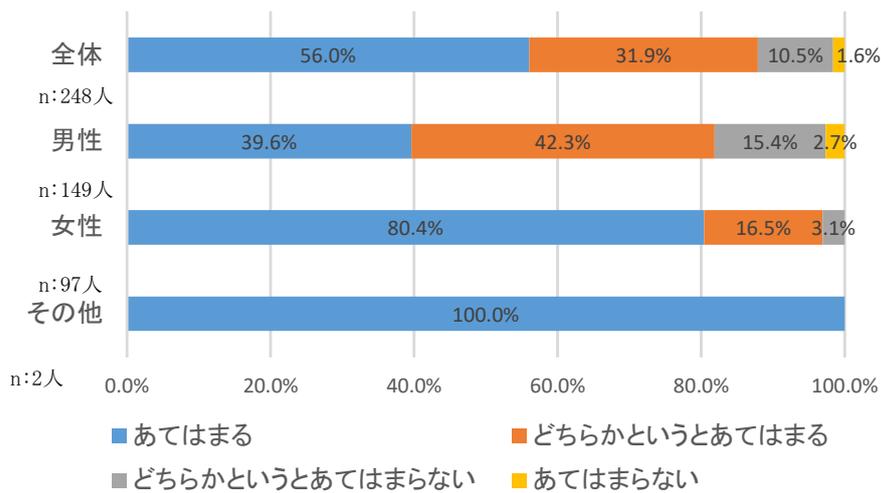
・将来のパートナー（夫・妻）は収入の高い人の方がよい



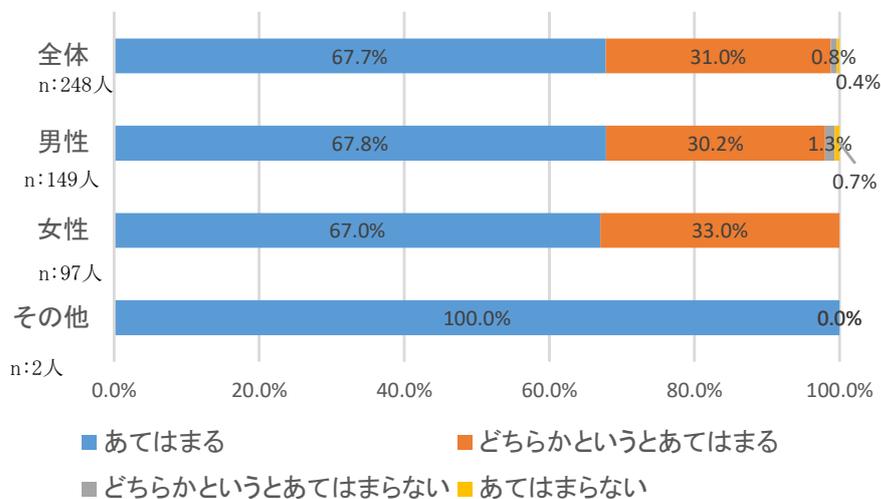
・将来できれば子どもを持ちたい

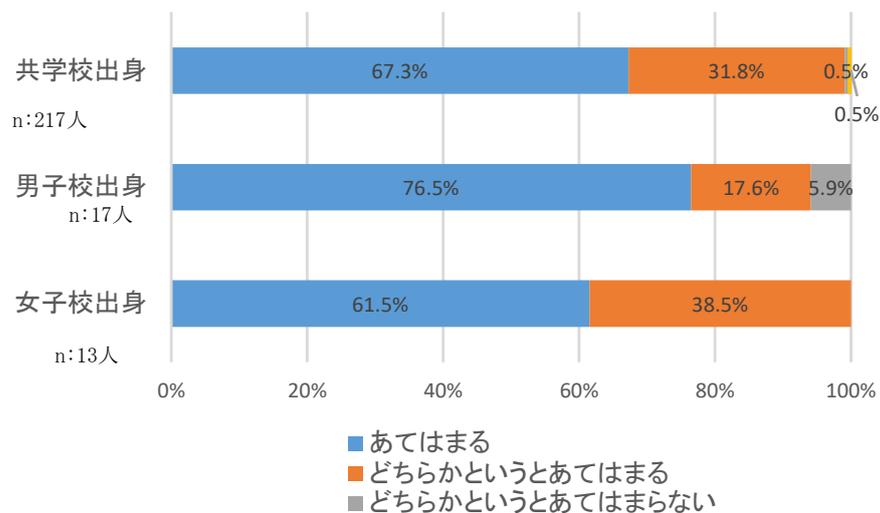


・子どもが生まれたら育児休業を取りたい

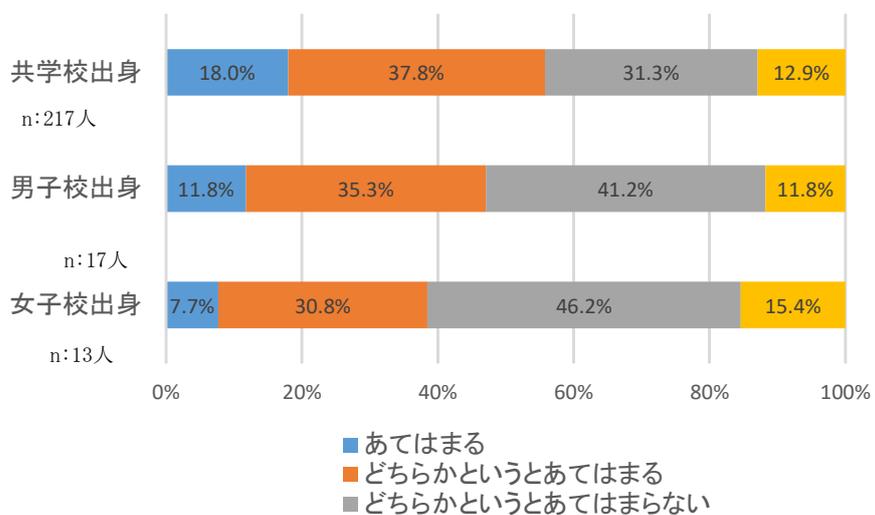
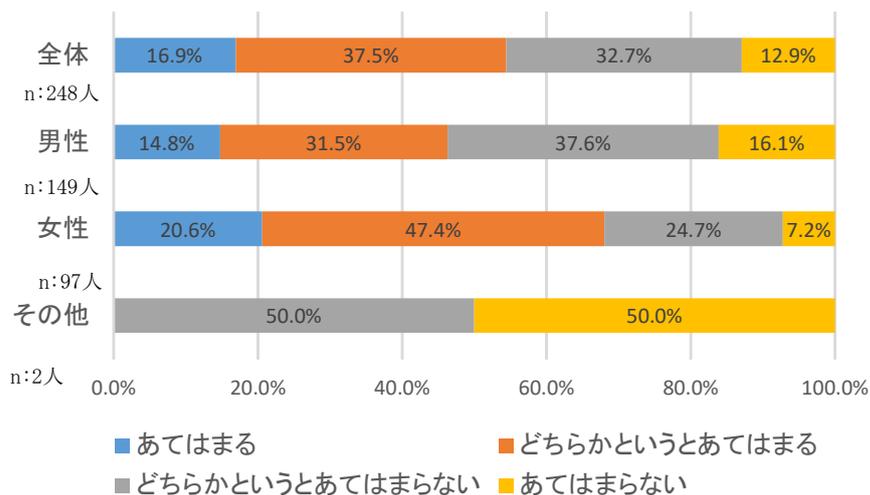


・家事や育児と、仕事を両立するのはとても大変なことである

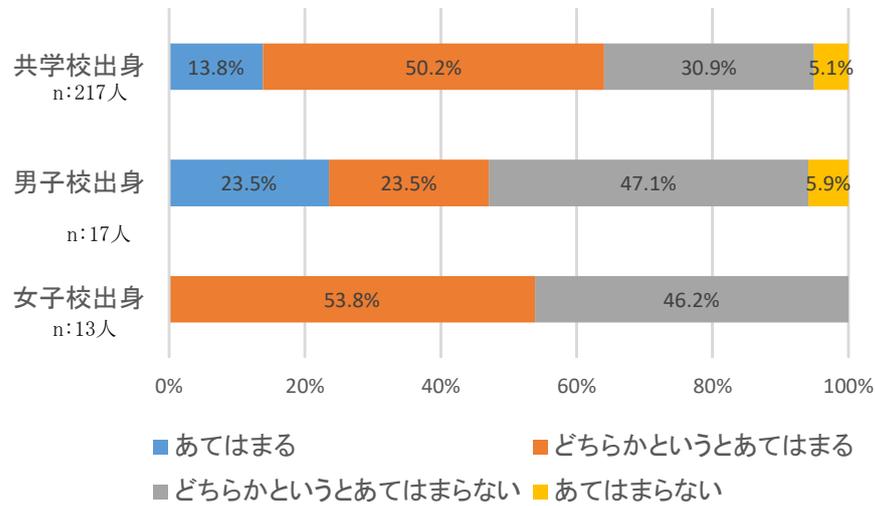
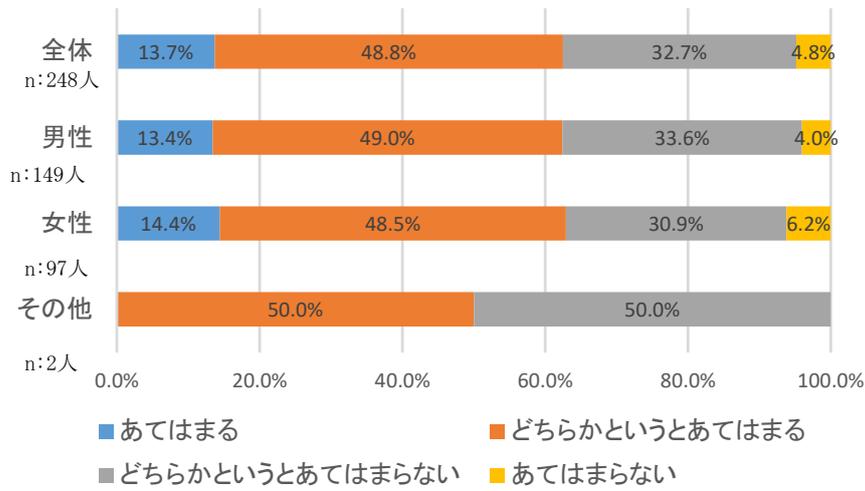




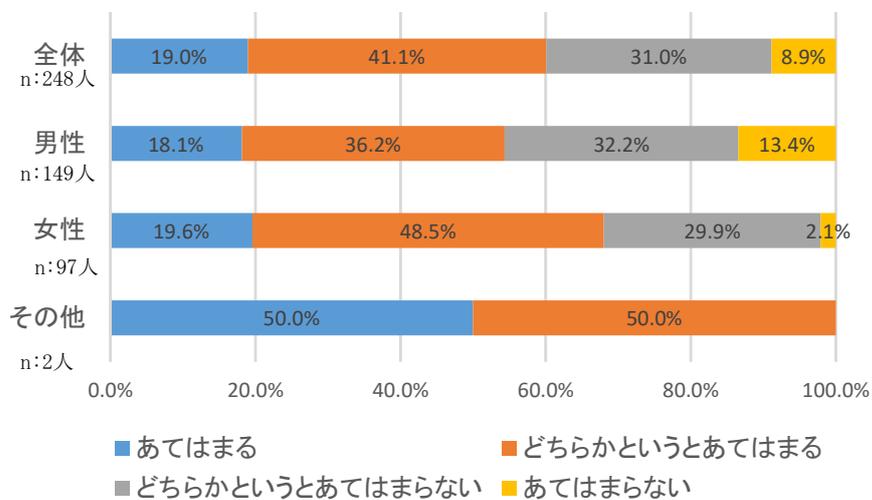
・子どもが3歳くらいまでは、母親が家で育てたほうが良い

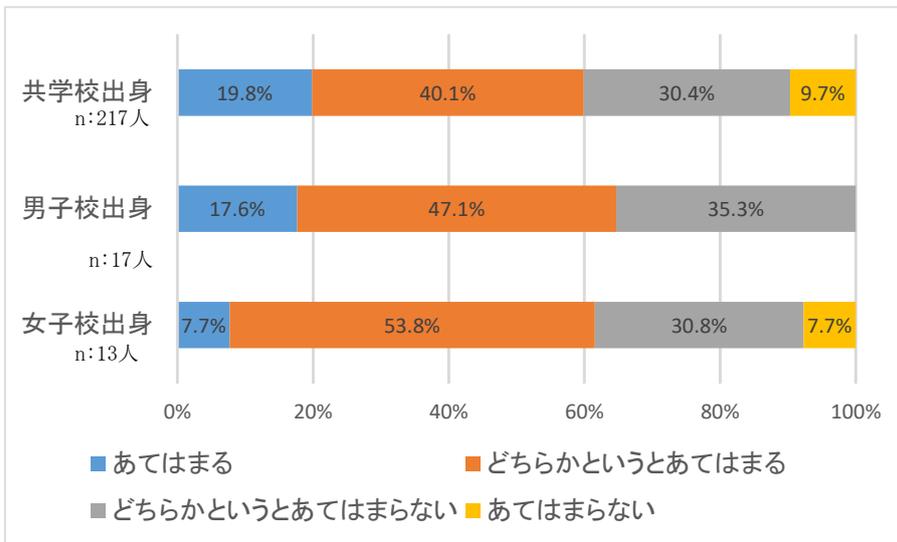


・家族に介護が必要となったら自分が引き受けたい

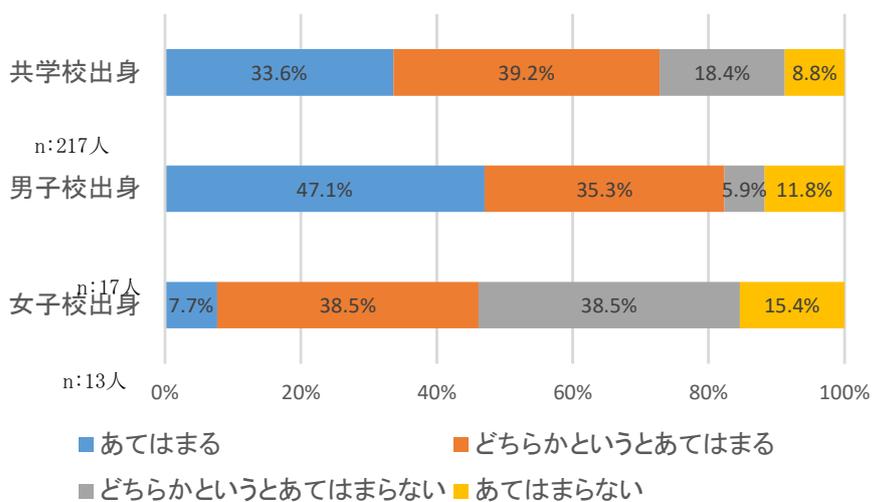
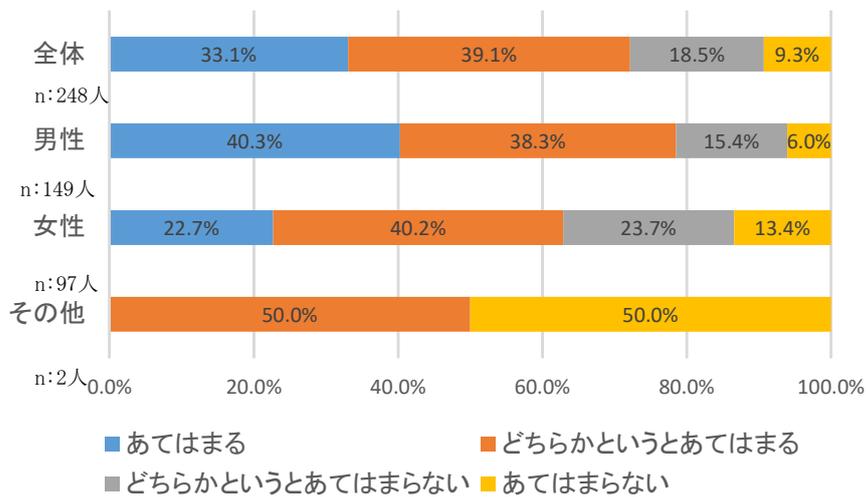


・「リーダーの役割はあまり引き受けたくない

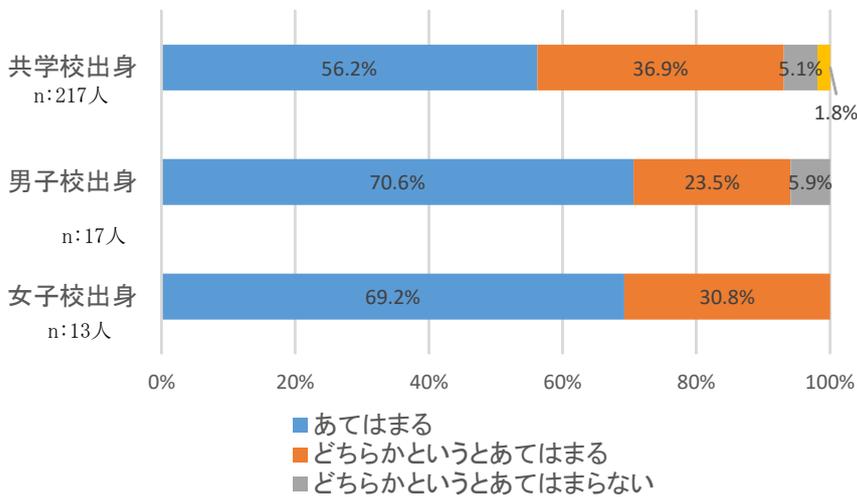
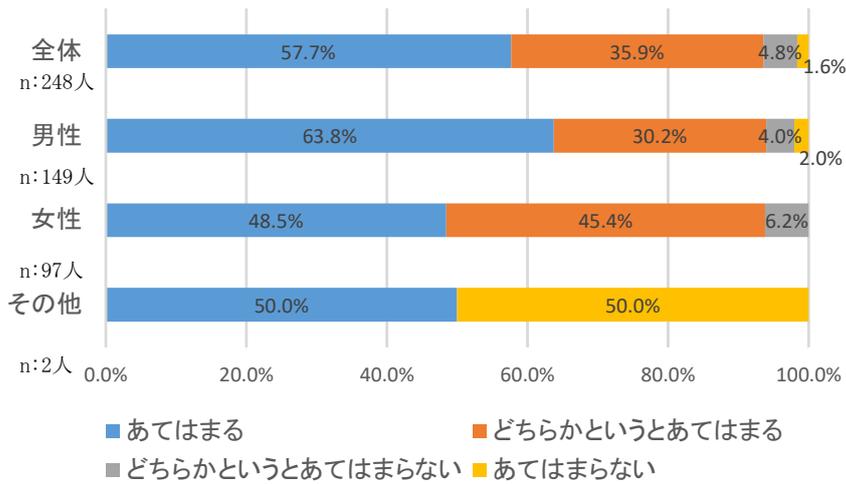




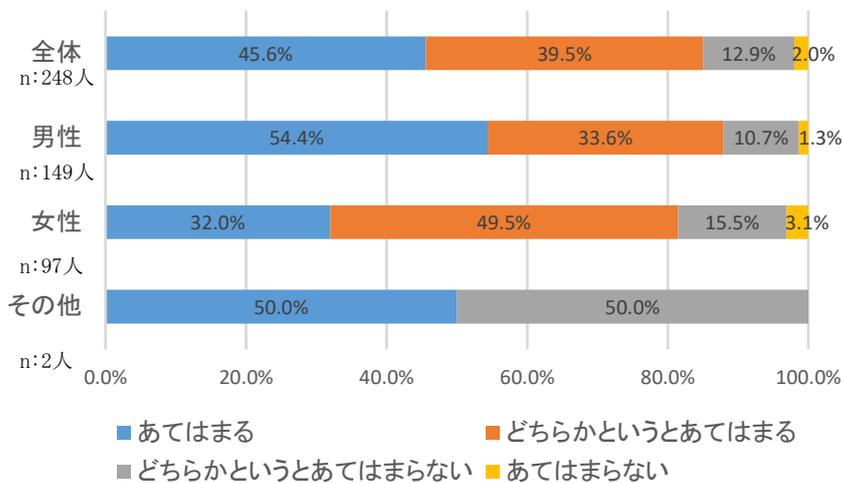
・性別によって向いている仕事が違うと思う

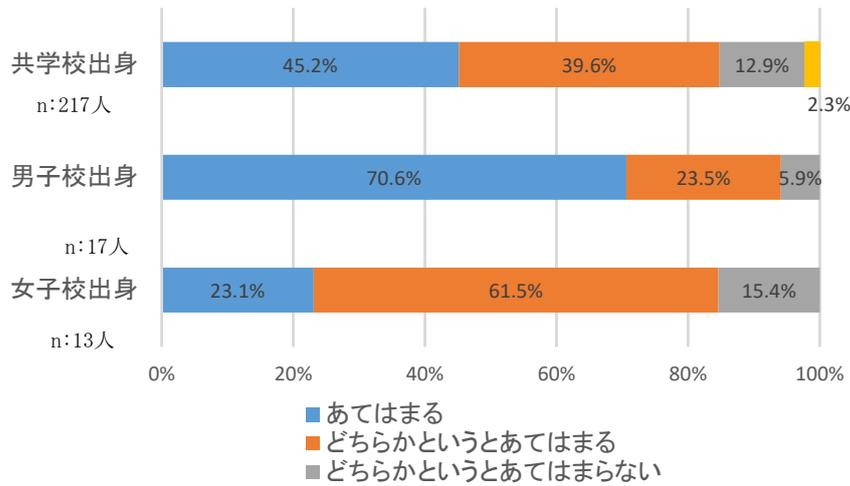


・男女の差より個人の能力差のほうが大きい

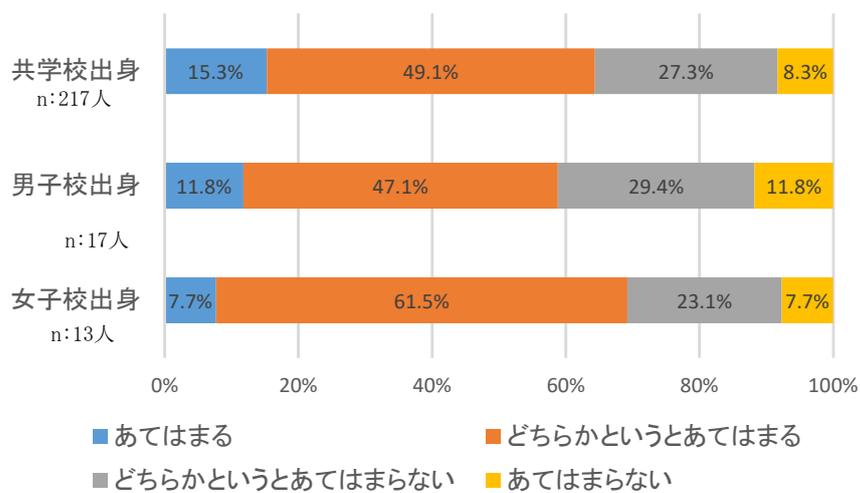
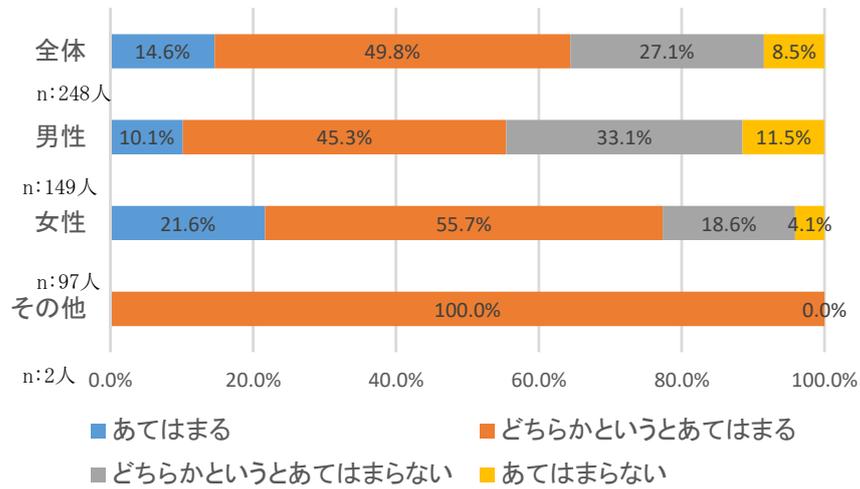


・男女平等を強調しすぎると、逆差別になる恐れがある

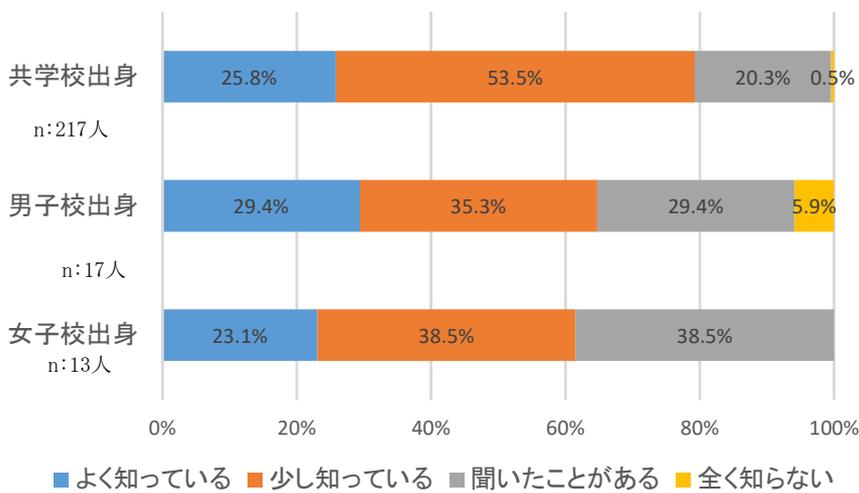
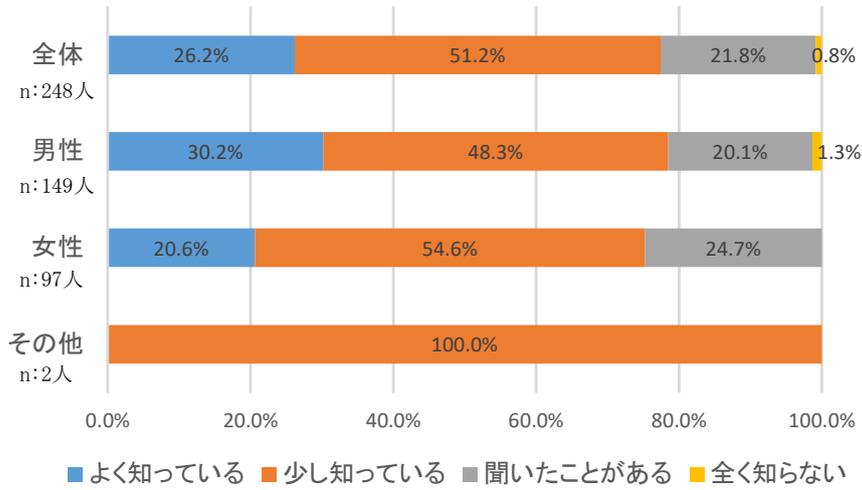




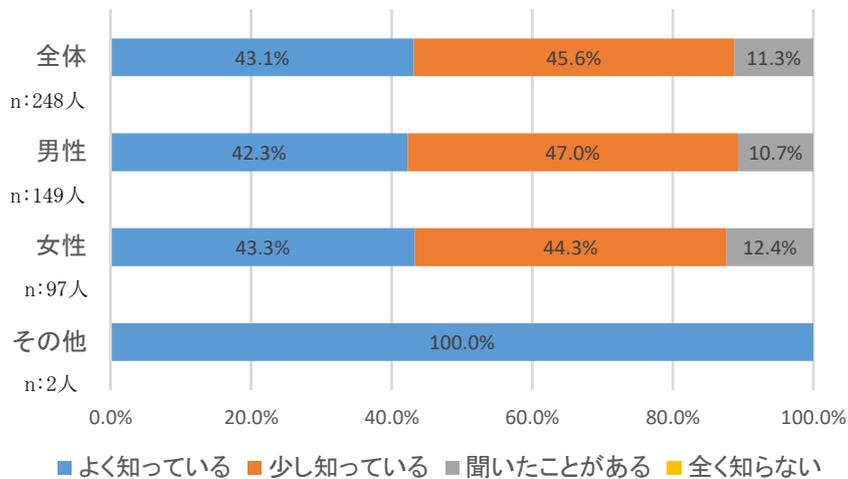
・日本では男性の方が優遇されている

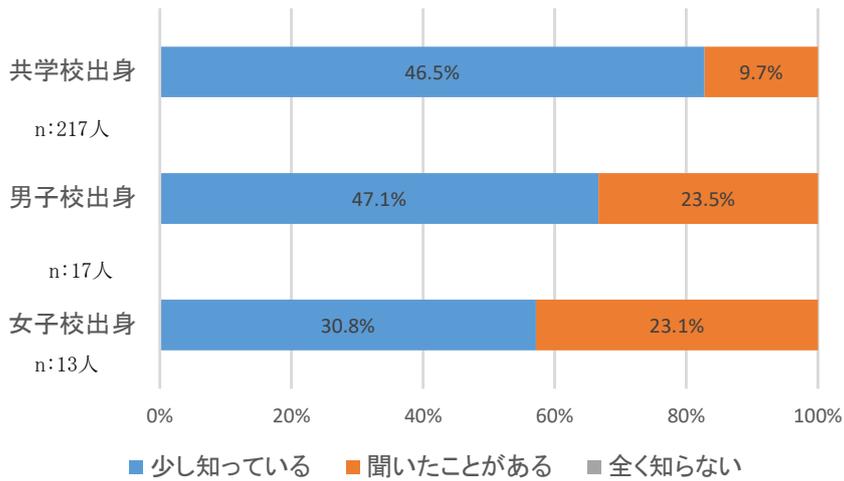


・男女雇用機会均等法について

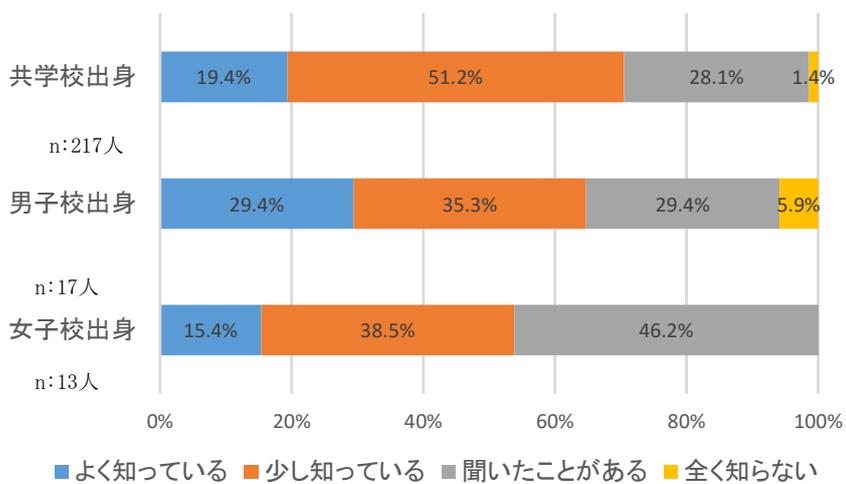
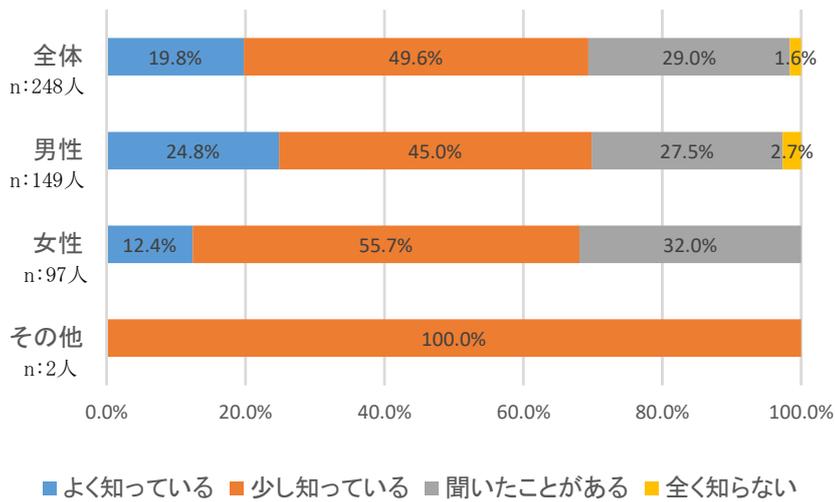


・ジェンダーについて

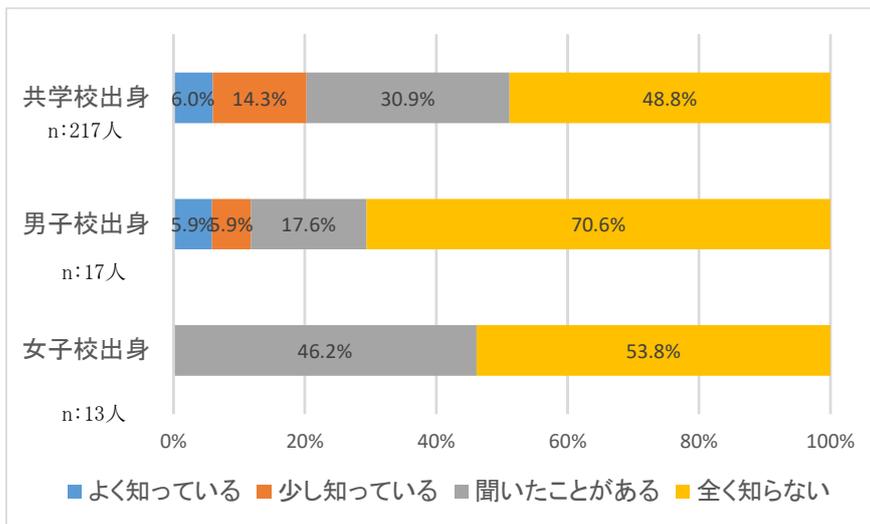
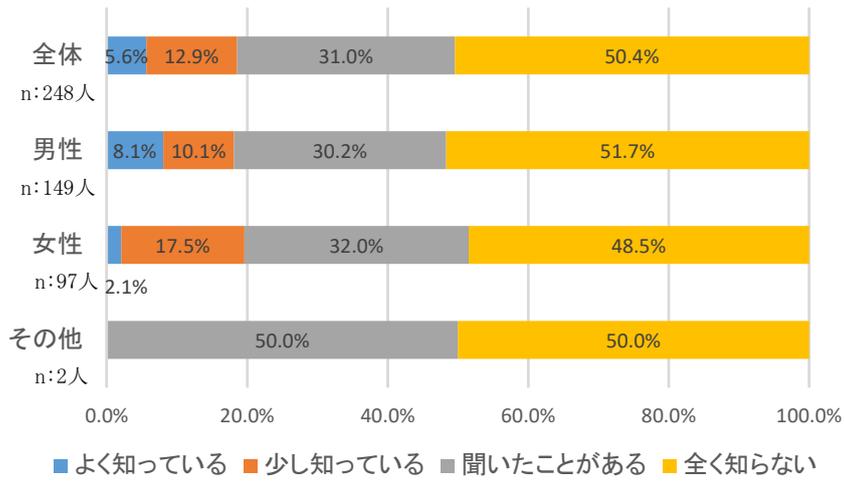




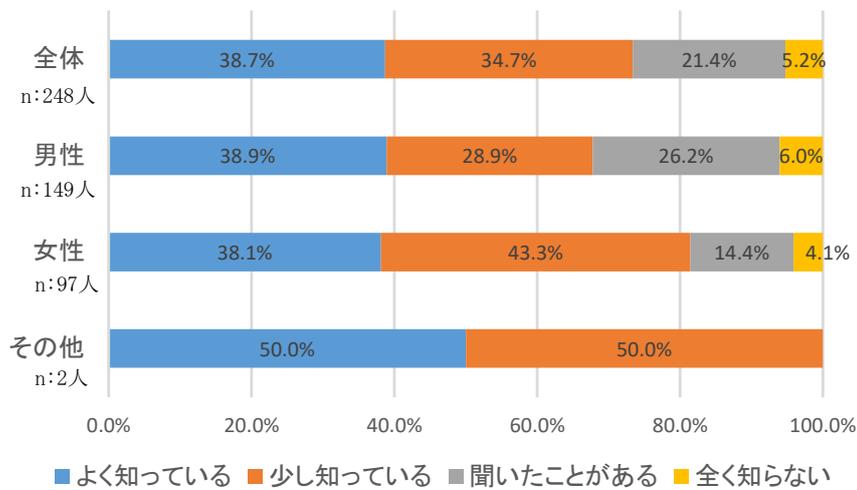
・男女共同参画社会基本法

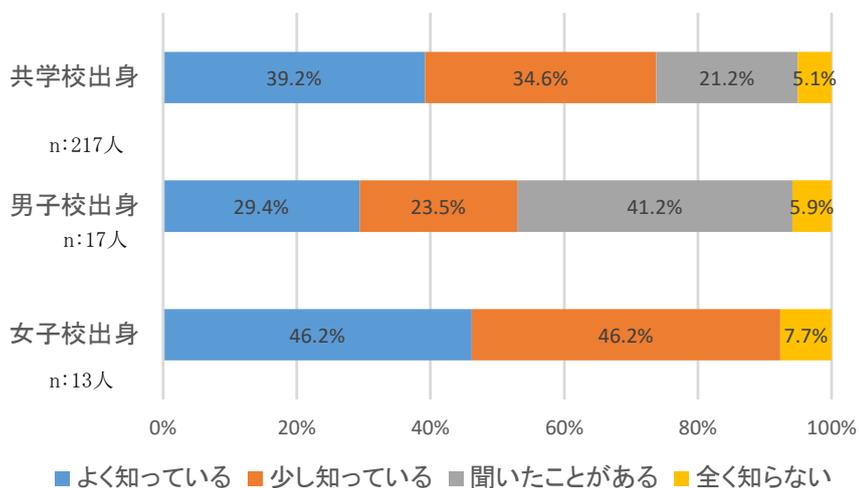


・ポジティブアクションについて

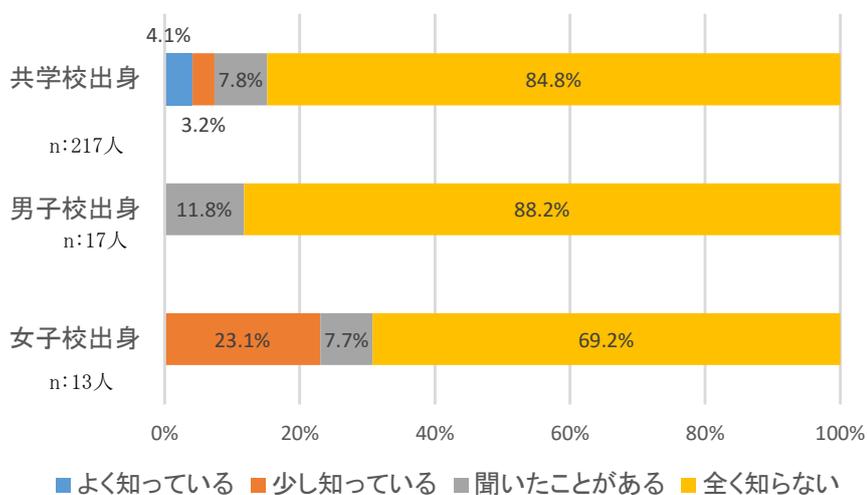
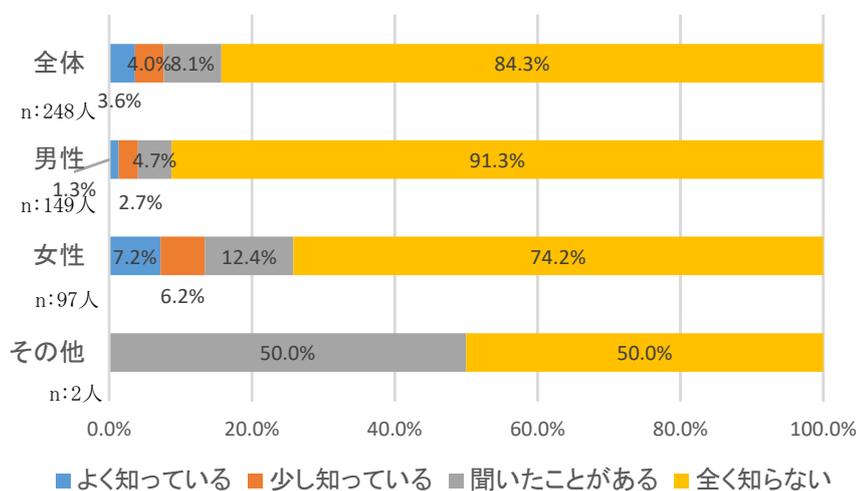


・ワークライフバランスについて

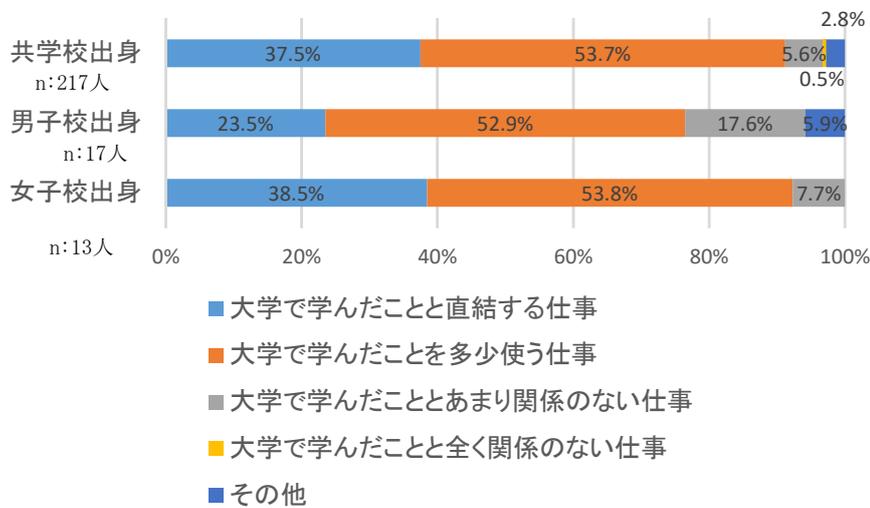
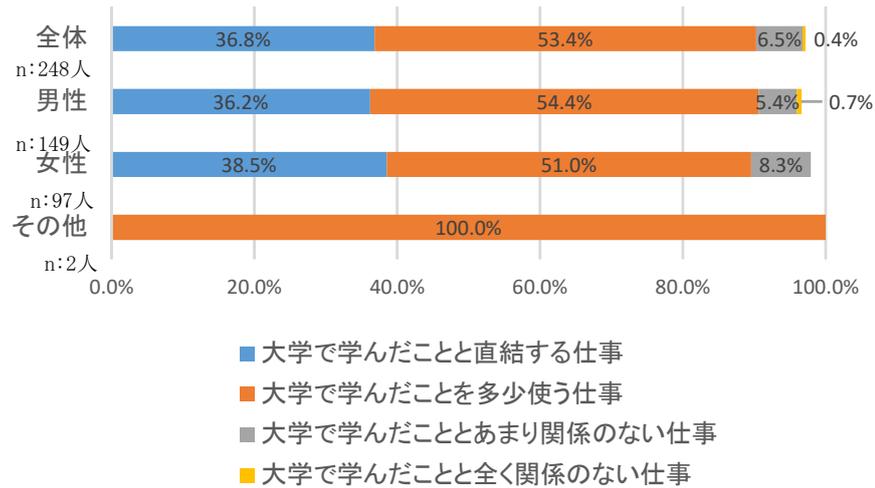




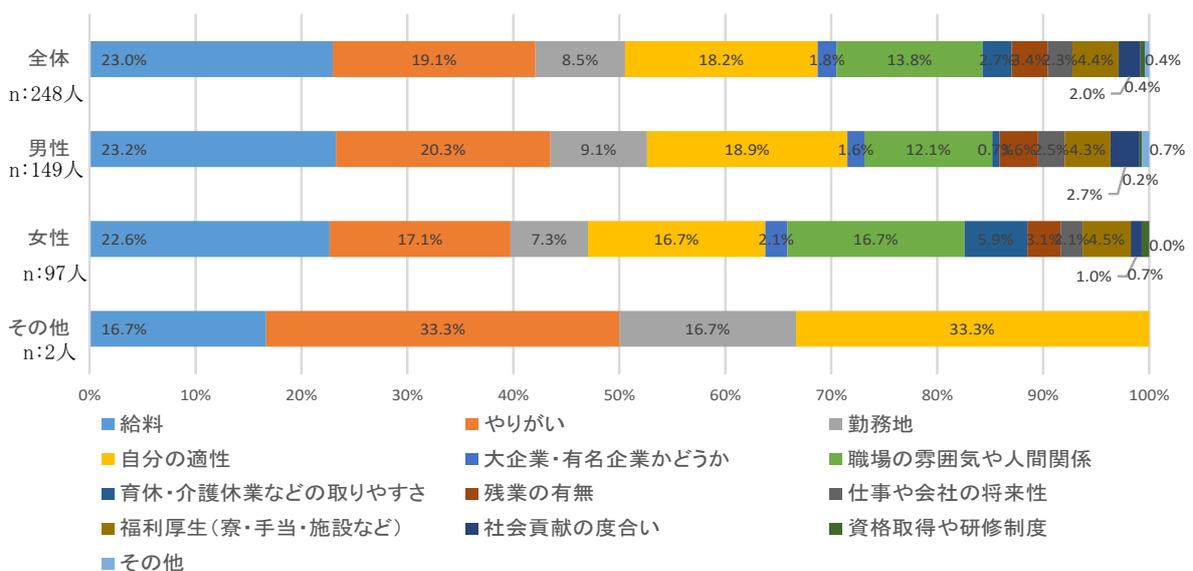
・くるみんマークについて

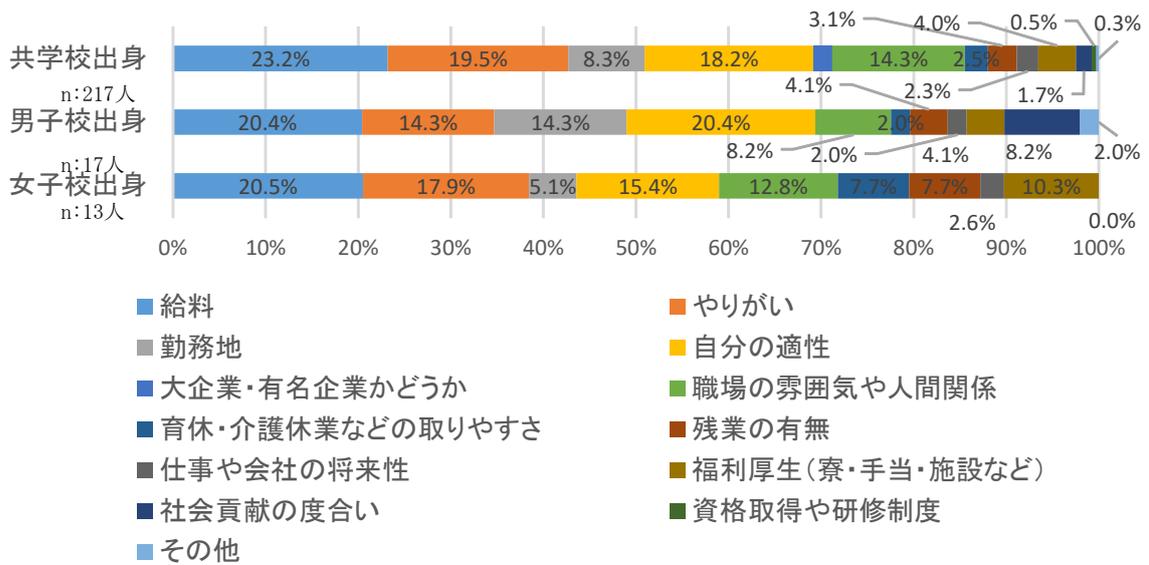


・将来はどのような仕事に就きたいですか

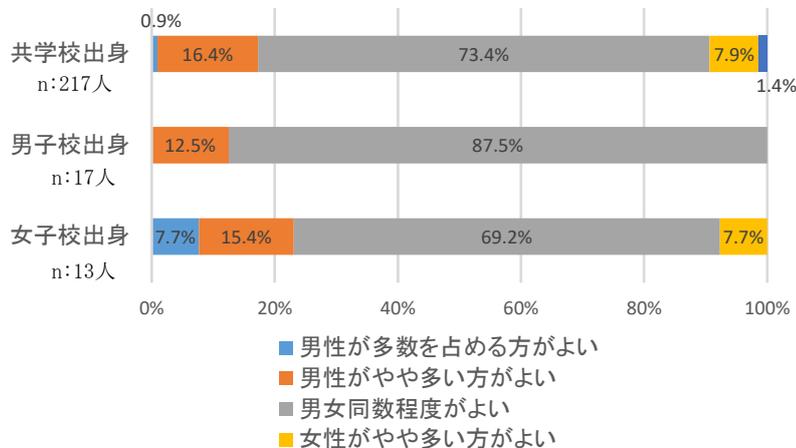
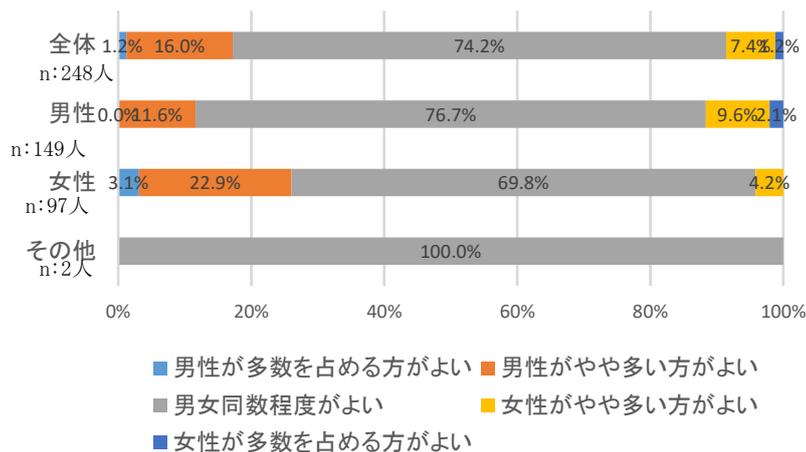


・将来の仕事や会社を選ぶ際に重視することは何ですか



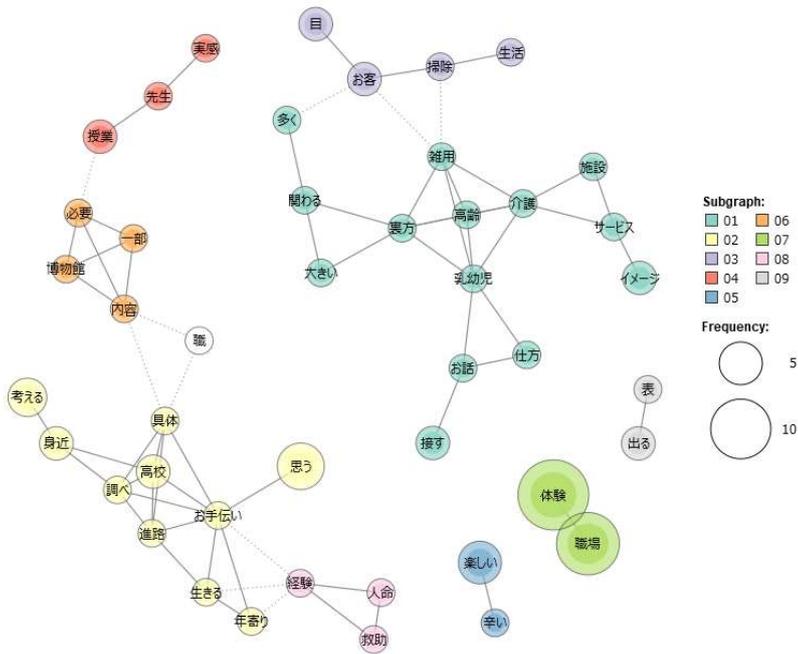


・あなたの所属する学部全体の男女学生の理想的な割合はどの程度がよいと思いますか

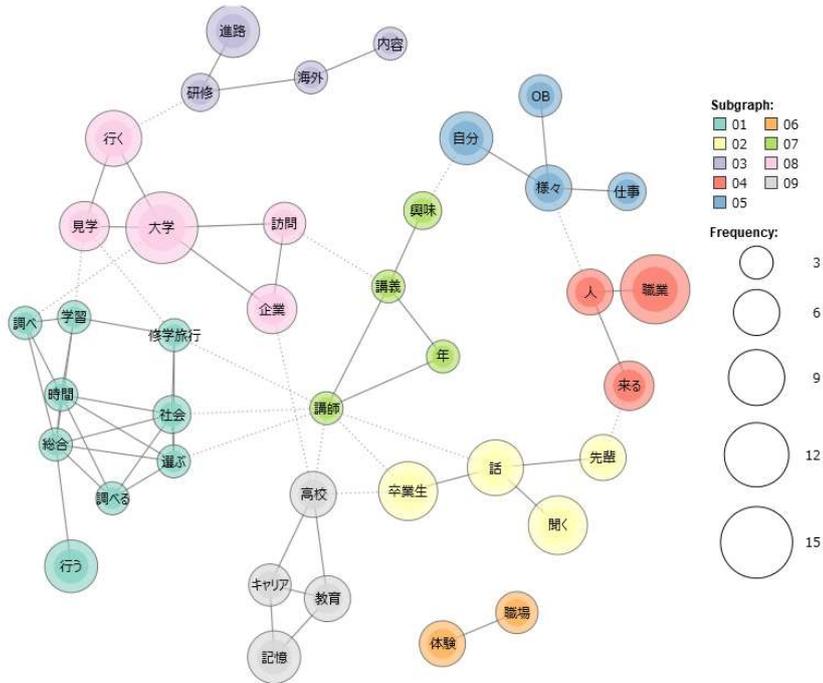




・ 中学校での職場体験で学べたこと



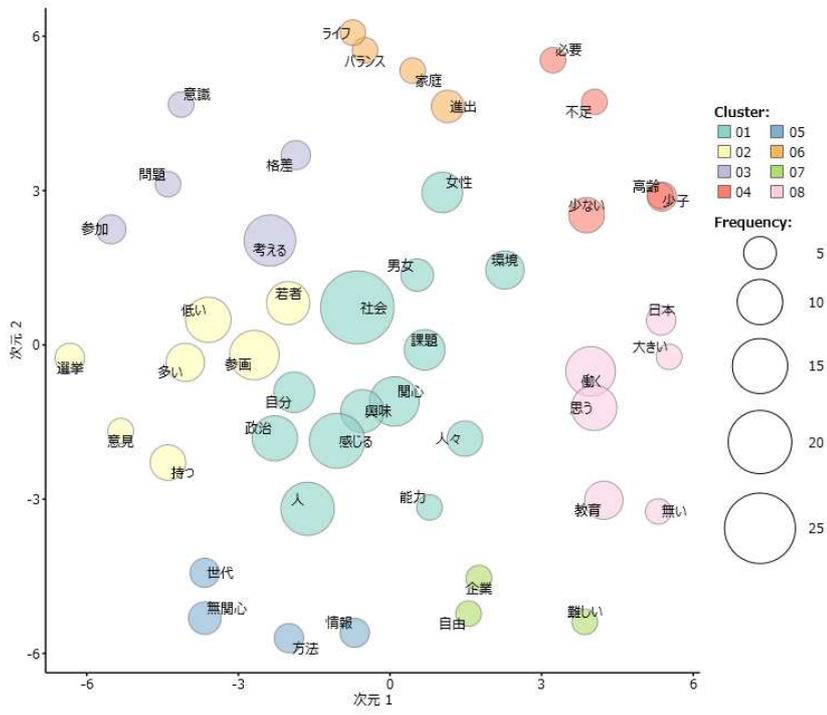
・ 高等学校でのキャリア教育について







・ 社会参画についての現代的課題についての意識





## ビデオコンテンツ(インタビュー)

○ 山田千代子さん(長野県NPOセンター理事長・元長野市議会議員)



NPOの立ち上げから課題

人をあてにするのではなく  
自分たちが立ち上げるのがNPO

NPOの立ち上げから課題

もう一度がんばることを  
ボランティアたちが伝えた

訴えたいこと

大学は学問を深める場

訴えたいこと

社会を動かしている人たちと  
議論することが大事

訴えたいこと

チャンスを捕えることを身につける

訴えたいこと

そのとき与えられたことを一生懸命やる

訴えたいこと

そのために町へ出て  
大勢の人たちと話をしてほしい

訴えたいこと

学びは生涯続けるもの

○ 小林達矢さん（長野県NPOセンター事務局次長）



NPOセンターでの仕事

長野の魅力を知るため  
人と人の出会いを仕事に

SDGsカードゲームについて

今ある仕事が続いてあると思わない

SDGsカードゲームについて

SDGsの課題に取り組むことで  
将来持続する仕事が見つかる

SDGsカードゲームについて

重要なのは疑問を持つこと

これからの目標

さまざまな仕事から  
新たな仕事を生み出したい

これからの目標

様々な人たちとつながり働きたい

訴えたいこと

就職がゴールではない

訴えたいこと

自らが生み出すチャレンジを

○ 松本 裕さん（大手通信会社デジタル革新本部デジタルデザイン部長）



社会人になって

地方勤務を経験

社会人になって

上司や周りの仲間が気を使ってくれた

社会人になって

後から 気遣いしてもらっていたことを感じた

社会人になって

30代半ばで結婚

家での暮らしについて

家庭と仕事の両立

家での暮らしについて

かなりの部分を妻にまかせきりだった

家での暮らしについて

子どもたちに自分の仕事を見せた

家での暮らしについて

子どもたちが勉強や読書をはじめた

家での暮らしについて

子育ても仕事も  
分からないときはまずやってみる

出向を経験

なぜ自分が出向なのか 深く考えなかった

生き方・考え方について

情報通信産業の分野では  
10年前に無かった企業が 今世界をリードしている

生き方・考え方について

人に役立つものづくりを

大企業で働いてみて

多彩な仕事の場があり  
キャリアステップが可能

大企業で働いてみて

そのときは分からなくても  
すべての経験が結びついている

大企業で働いてみて

新しい出来事に一生懸命取り組む

女性が働くことについて

男性も家庭で働くことが大切  
女性が働きやすい環境に企業や家庭が変えることは重要

## [令和元年度研究委員]

高野嘉寿彦 信州大学総合人間科学系長・教授  
中島 美帆 信州大学男女共同参画推進センター長・准教授  
小山 茂喜 信州大学教職支援センター副センター長・教授  
荒井英治郎 信州大学教職支援センター地域連携部門長・准教授  
山田千代子 NPO 法人長野県 NPO センター  
城取 学 (株) キッセイ・コムテック・常務取締役  
中村 麻紀 (株) 東日本旅客鉄道長野支社・佐久平駅長  
藪塚 謙一 (株) 朝日新聞教育総本部・総括

文部科学省 令和元年度  
「次世代のライフプランニング教育推進事業」  
教養教育（教職科目を含む）における  
ライフプランニング教育プログラム開発  
成果報告書

編 著 者： 国立大学法人 信州大学  
研究代表者： 高野嘉寿彦  
編集責任者： 小山 茂喜

発行者 国立大学法人 信州大学 学務課  
〒390-8621  
長野県松本市旭三丁目1番1号  
TEL 0263-37-2271

発行日 令和2年3月31日